

# 京都市域における埋納（祭祀）遺構の集成

久世 康博

## 1. 埋納遺構集成の基準と目的

本稿で取り上げようとする「埋納（祭祀）遺構」とは、通常よく検出している土坑や柱穴などの遺構とは様相を異にしており、土器などの投棄穴ではない。しかし未だどのような性格付けをするべきか決定することが出来なかった。そのためこの種の遺構を単純に祭祀遺構と言ったり、地鎮遺構などと呼んでいた。近年のデータの増加や研究成果によって、それらの多くが何らかの祭祀に関連するのではないかとの見通しを持つに至った。この遺構は通常単独である場合が多いように見えるが、他の遺構や遺跡全体に密接なかわりがあると考えた方がよい。

埋納（祭祀）遺構の集成に際しては、筆者が今まで述べてきた基準に沿って収集することとした。すなわち単に遺物が投棄されたような状態ではなく、意図的に埋められた状態で発見されている遺構と言える。具体的には皿などが同じように据えられていたり、土器同士が合わせたような状態であったり、遺物を立てかけたり並べている状態であること、などである。

今回、埋納遺構の集成を目指したのは、遺構の位置・埋納方法などを総合的に分析することによって、祭祀の目的や変遷etc.が明かになるのではないかと思ったためである。本稿では平安京を中心としており、必ずしも普遍的な分析が出来るとは言えないが、その端緒にならんことを願っている。

## 2. 検出事例

京都市内で検出された祭祀に関連する遺構は、遺漏もあるかと思うが本編で130箇所を数えることが出来た。そのうちわけは、遺跡別に見ると平安京（宮9基、左京24基、右京52基）を中心として、周辺に長岡京（10基）、植物園北遺跡（14基）、法興院（4基？）、京大構内遺跡（3基）、法金剛院跡・上ノ段町遺跡・北野廃寺・榎原廃寺・鳥羽離宮跡・安朱遺跡（以上各2基）、金閣寺・広隆寺旧境内・北白川廃寺・深草坊町遺跡・中臣遺跡・醍醐寺・日野谷寺町遺跡（以上各1基）からの例が認められる。そして梅ヶ畑（祭祀）遺跡は丘陵そのものが祭祀遺構としての役割を果たしていたようである。また参考資料も16箇所を数えており、新しい時期の例では智積院境内（7基）・伏見奉行所跡（60基）からのものもある。

検出された遺構の多くは土坑であり、検出状況から塵芥や遺物の投棄のための土坑とは趣を異にしていることは明らかである。掘立柱建物の柱穴に、遺物を埋納する例もしばしば認められる（18基）。井戸祭祀の例については判定が困難な事例が多いが、明確にその痕跡が認められるのは3例である。そして類例は多くないが、墓塚の例も認められる。また祭祀を行っていたであろう

う痕跡の例もある。

### 3. 祭祀遺構の種類

**土坑** 土坑の場合、壺・皿のみの埋納例も比較的多く検出されているが、基本的なタイプは須恵器小壺と土師器皿（複数）をセットにして埋納する例である。何れも立てていたり上向きの状態の場合が多い。また五穀などの供物が在ったかと思われるが、検出の時点では確認出来なかった。これらの下に拳大の礫を埋置したり、銭貨・金属製品・炭・珠玉などを組み合わせて埋置していることもある。

その規模はおおよそ20cm程度の規模で大きくても70～80cmぐらいである。平安京では四行八門制の町内の細部にわたる構造が、文献史料・調査結果によっても一部明らかになっている。これらの成果を利用して検討してみると、多くは土地占有のための遺構と見られる、溝・柵列といった施設に接して穿たれていることが多い。このようなことから将来的なデータの増加によって、班給された宅地面積が判明する例が出てくるものと期待している。

平安京以外では未だ判然とはしない例が多いが、建物との関係も指摘できるのではないかと考えている。つまり推定される建物の四隅または柱筋を延長させたところに、単独で検出される例で宅鎮に関する修法である。他にも別々の遺構から出土した土器片が接合して完形品になる例も報告されており、何らかの意図を持っていたことは明かであるが、その目的とするところは検討課題の一つである。

**柱穴** この遺構での埋納法には、

- 1、堀形（柱を建てる以前、つまり建物の建築に際して埋納する）
- 2、柱当り（柱を引き抜いた後、つまり建物の廃棄時に埋納する）

この2通りがあるが、平安京内では柱の堀形に埋納した例は非常に少ない。柱を抜きとった後に坏・皿・椀などの土器類を一定の方向に向けて埋置する例が比較的多いようである。あるいは抜取穴に土器や金属片を並べ置く例もある。柱当りに納入する土器は土師器皿、須恵器壺の例が多いようである。今後の検出如何では納入される遺物や種類によって一定の傾向が導き出されてくるのではないだろうか。

柱穴に関する祭祀の痕跡は1棟について1箇所というのが通例であるが、複数箇所の場合も時に認められる。埋納箇所も建物の四隅とか柱列の中央の柱の場合が比較的多いようである。しかし現時点ではその法則性は認められない。検証することは出来ないが、おそらく陰陽師などに卜占させて、その結果指定された柱穴に埋納したのではないかと考えている。

**井戸** 井戸をめぐるの祭祀は、日常生活に結び付いている遺構であるだけに、それが常態的に行なわれていたと考えるべきである。しかしその形跡は断定しにくい点がある。というのは、大半が井戸を埋め戻した土の中から出土しており、果たしてこれが祭祀に伴うものであるかあるいは偶然の要素に伴うものであるのか、判断できるのかどうかということである。出土する遺物も先に挙げたようないわゆる律令祭祀遺物が多く、井戸に関する祭祀や呪詛などがあったとも考

えられるが、やはりこれだけで判断を下すことが出来ないのが実情である。ただトータルに見ると、土馬、斎串の出土が多いのが特色と言ってもよい。

近年、左京八条二坊十四町（16）や右京七条二坊十二町（33）例のように祭祀の様子をうかがわせる検出の報告もあるようになった。ほかにも右京二条三坊十六町（26）のように、祭祀を行なった様子をうかがわせる例もある。また西市やその周辺でも土馬、斎串といった祭祀遺物が比較的多く出土している。そして平安京内では、井戸の中から祭祀遺物が出土する例は、このほかに19ヶ所発見されている（久世1988）。ここでは集計していないが、銭貨の出土する井戸をも祭祀の痕跡とするならばもう少し増加するであろう。

**墓壇** 平安京内からは、平安時代前中期には①右京七条四坊一町（34）、②右京三条三坊十町（京都市埋文研1990b）、後期は③右京五条二坊五町（30）で検出されている。③は律令制が崩れてきており規制力が無い時期で、特に人家が減少してきたかの地においては首肯しうる現象である。②は9世紀代の建物が廃絶した後に埋葬されたものである。この点からすれば③と同様の現象と捉えることが出来るであろう。これに対して①は律令制がまだ機能していると考えられる段階であって、条坊道路内に埋納されており、宅地内での埋葬とは趣が異なっている。この検出例は立会調査という制約があるものの、出土状況から、小児の墓壇と考えて差しつかえないであろう。そしてこれは「辻の祭祀」の痕跡である。長岡京の例も何れも小児棺であり、辻の祭祀と河川の祭祀に伴うものがあると考えている。

**胞衣（臍の緒）埋納** 出産に関わる祭祀は普遍的であると考えられるため、平安時代でも当然存在しており、実際に日記などの文献史料でも認められる。だが、平安時代での検出例は現段階では報告例はない。

江戸時代の例では伏見区で多数検出されている（1）。報告では特にコメントしていないが、検出状況から民俗儀礼に伴うものとも考えられる。これは民俗例の報告によれば、「胞衣や臍の緒を人通りの多いところに埋めると子供が立派に成長すると言われている」という事例に対応するものと考えられる。

**祭祀の痕跡** 右京二条二坊五町（23-④）では、堀立柱建物（SB3あるいはSB4）の南と西側で須恵器小壺（瓶子）を検出している。それらの内部には南側のものには赤い小石を、西側には白い小石を充填していた。物の本によれば、更に東には青い石を、北には黒い石を、中央には黄色い石を充填する小壺があったものと考えられるが、東・北は調査区の関係上検出することはできなかった。中央の例も今回は検出できなかった。鳥羽離宮第2次調査（49-①）では建物土壇（北辺中央部）の端近くに黄褐色のガラス小玉を納入する壺が埋納されていた。これも建物建築に伴う地鎮祭祀の痕跡ではないかと思われる。室町時代の遺構ではあるが、左京二条四坊十一町（b-②）では壺に黒い角礫を納入する遺構が検出されている。同様の祭祀を行っていたものであろうか。

**経塚** 信仰に基づく遺構ではあるが、ここで目指している埋納（祭祀）遺構の範疇には入っていない。京都市内では稻荷山（平安後期～鎌倉）、鞍馬寺（平安後期～鎌倉）のそれが著名であ

るが、他にも北野天満宮（平安後期）、花背（平安後期～鎌倉）、修学院（平安後期～鎌倉）、將軍塚（平安後期）、清水寺（平安後期）、亀塚（鎌倉）、双ヶ岡（法金剛院、平安後期）、盆山（檜原、平安後期）、南原（石作、平安後期）、善峰寺（平安後期）、上醍醐（?）、天神岡（平安後期）、四明ヶ嶽（平安後期）、安祥寺（平安後期）、鷹峰（平安後期～室町）、浄土寺南田（平安）、久多経ヶ嶽（?）、如意ヶ嶽（?）、鹿ヶ谷（?）、東山松原（平安後期）などがある。何れも土木工事や災害に伴って偶然に発見されたものである。発掘調査によって確認されたのは、広隆寺（弁天島、平安後期～鎌倉、16基検出）の事例のみである。

#### 4. 埋納形態による分類

##### 一土坑一

出土遺物から見ると、a埋納しているのは土器かその他のものか。b土器のほかに供伴するものがあるかどうか。c出土する遺物の組み合わせの状態。c'土器を保護したり見栄えを良くするようにしている。こうした観点にたって分類したのが次の図である。

1 素掘りの小土坑に皿数枚、壺（甕）1点等を基本としてどちらかを据え置く。……1-⑤⑥、2、3、4-①④、5-①②、6、8、9、②、14、17、22、23-④、33-④、35、36-②③、38-⑦、39-①⑤～⑨⑫⑭、40、47、49-②、50、52、d、i、m

2 小土坑に皿数枚と壺（甕）等のセットを基本として埋置する。……1-④、7、10-①②、13-①②、18、20-①②、21-④、23-①～③、25-②③、28、33-①⑧、39-④、53、b-①②

3 多量の土器を埋置する。

a 一定の単位をもって土器をぎっしりと詰め込む。……39-①、5

b 皿類の土器を敷き詰め、その上に壺（甕）等を据え置く。……31

4 一つの土器を複数の遺構に分散して埋納する。……47、g-③

5 胞衣を納入する土器を埋置する。臍の緒を納入する例はまだ確認されていない。

6 土師器皿、須恵器小壺等のほかにも銭貨などを祭祀具として埋置する。金属製品が供伴す

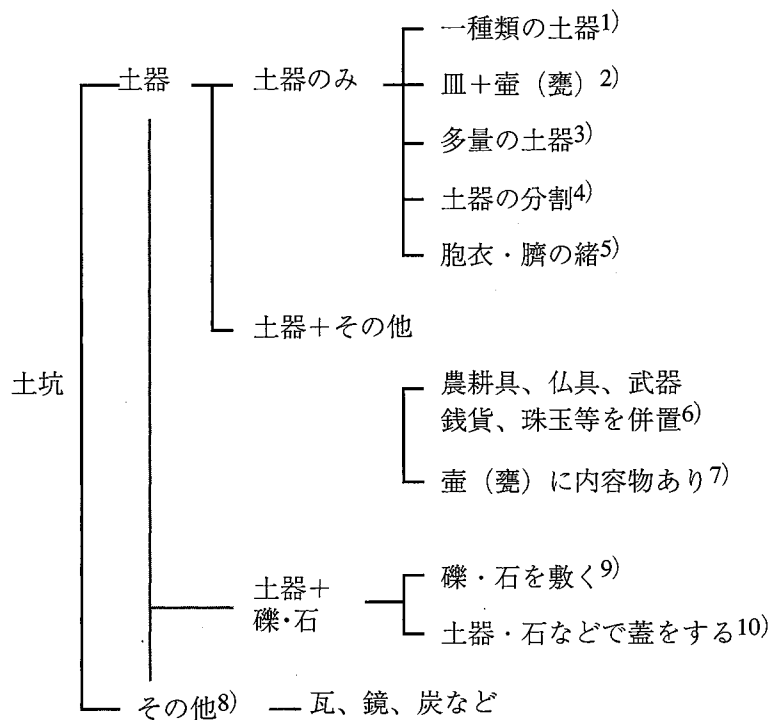


図1 埋納土坑の形態分類（案）  
（図中の番号と本文は対応する）

る場合が多いが、木製品の埋納も当然あったと考えられる。……19、24-①②、26-①、38-⑥、  
k

7 壺（甕）等にガラス・銭貨、小石などを納入する。……1-①②③、25-①、26-②③、  
29-①②、30、33-⑥、37-①②、41-①②③、44、49-②、f

8 （軒）瓦・炭・鏡などを埋納するが土器類の出土はない。……1-⑦、48-①②

9 土坑の底に拳大の礫を置き、土師器皿、須恵器小壺等を単体あるいはセットで据え置く。  
その他の遺物を同時に埋置する場合もある。……17、18、19、24-①②③、25-①、28、33-⑤  
⑩

10 壺や皿などの土器を置き、その上に石や土器で蓋をする。その他の遺物を同時に埋置する  
場合もある。……11-①、29-①②、30

検出している遺構の数量としては、1または2の埋納方法が最も多く、基本的なパターンと言  
える。6・8・9は他の埋納パターンと重複する場合があると想定できる。近年、埋納土坑の検  
出事例の増加により、8の例は宅地班給に伴って発見されることが多く境界祭祀の痕跡としての  
典型的な例かと考えている。

他にも土坑内に礫のみを充填する小土坑（g-②）があるが、まだ埋納・祭祀関連遺構とは結  
論しがたい。

#### ー柱穴ー

1 柱当に単数あるいは複数の完形の土器を入れる。その場合一定方向に据え置いたり、更に  
土器で囲むようにして立てかけることもあることもある。……21-①～③⑤⑥、27、29-③、  
32-①～③、33-①③⑨、36-①、39-⑪⑬、46-①②、51、h

2 1のほかに柱当の中位に石を置いたり蓋をする。……20-③、39-②③⑩、e

3 柱掘形に土器などを埋置する。……g-①

4 柱掘形の底部に銭貨などを埋置する。……京都市内での検出例はない。

#### ー井戸ー

1 廃棄時に石・土器などを据える。……16、33-⑦、c、口

2 廃棄時に息抜きをする。……j、イ

3 井戸を穿つ時に行なう場合。井戸掘形内になんらかの祭祀痕跡が認められる。……平安京  
・左京二条四坊十町

4 井戸を使用中にもなんらかの祭祀が行なわれていたと推定できる。……26-④、a

#### ーその他ー

1 散布・散乱……15、23-④、43-②、54

2 掘形不明……23-⑤、b-③

### 5. 祭祀の対象・目的

柱穴の場合とは違って、土坑の場合はその対象を特定することが出来ないことがしばしば見受

けられるが、位置関係から見て以下のように考えることが出来であろう。

【土地への祭祀】ひとつは敷地全体を対象とした境界・結界の祭祀である。平安京内では町を単位とした区画割があり、更に四行八門制によって32区画の最小地割の存在が想定されている。それは発掘調査によって溝や柵列で仕切られていたことも明かとなっている。この想定ラインが交差する付近や地割のラインに沿って土坑が穿たれている例が多い。したがってこのような土坑の増加によって、将来的には土地の占有形態が明かとなるのではないかと考えている。

土地所有形態の変化によって、町内でも私有地化が進んできており、自らの土地を安堵する必要が生じてきた。そこで祭祀という行為によって地の神に祈り、同時に現実に土地の私有を宣言するという行為にはかならないことが明かとなった。したがって、当時の宗教祭祀の意識としてだけではなく、平安京の一町内での土地の細分化過程の指標として成り立つ遺構でもある。まだ検出事例は少ないと言えるが、データの増加に伴ってかなり複雑な様相が予想される。

同様に鳥羽離宮跡第80次調査で検出された例も、築地遺構に伴うものであって土地区画に関わる祭祀、つまり敷地の安堵のための祭祀であると考えられる。

もう一点考えられる具体的な修法としては各種の陰陽道書で示されているような地鎮祭である。これは建物の造作や土地を造作する前に、地の神に対して工事の安全を祈願して行なう祭礼である。この種の祭礼は現代でもなお「地鎮祭」として頻繁に行なわれており、よく知られているところである。

各種の報告書を読んでいると、無原則に「地鎮（祭祀）」として報告している場合がよくみられる。何れも“地の神に対しての慰撫”という点では誤りではないと思う。しかしその対象を大きく分けて、「敷地（宅地・テリトリーなど）全体に対して」の場合と、「犯土（造作）に対して」に伴う場合とに分類してもよいのではないのかと思う。

【家屋への祭祀】土坑として検出される場合、(イ) 建物の四隅や中央の柱穴に近接したところに位置する、(ロ) 柱筋を延長させたところに位置する。この二つのタイプがある。柱穴については先述しているところである。

(イ) の例として植物園北遺跡 (39-④)、右京二条二坊五町 (23-④) が挙げられるが、瓶子と皿が埋納されていることから見ても平城京例とは異なったものと理解しなくてはならない。すなわち家屋に対しての安堵を願うものであったと考えている。ただし柱の掘形への遺物の埋納との差異は明確ではないが、建物が出来る以前と以後という時間的な関係をも考慮に入れておいてもよいだろう。

(ロ) は北野廃寺 (46-②)、植物園北遺跡 (39-⑫)、右京六条三坊四町 (31) にその例がもとめられる。位置関係から見ても、宅鎮に関するまじないかと思われるが、まだ結論を下す段階ではないように思われる。今後の類例の増加に期待するところである。

宅鎮に関する主な史料としては、次のようなものが挙げられる。

\* 『文肝抄』(防解火災祭) では、火藪人 (はこべら) 瓶一口にいれ壬 (北) 方に、景天草人を瓶一口にいれて丙 (南) 方に埋める。

\* 『相宅要説』起居工匠厭鎮解法…宅鎮法（故事類苑）

\* 『今昔物語集』第27巻第6－東三条の銅の精、人形となりて掘り出さるる語－東三条殿の庭の南の山を歩む人影は、御殿の辰巳の角の土の中（深さ二三尺）に埋納された銅器（提）の精であった。

【出産・育児】このことに関しては、平城京で建物の出入口に近接したところに位置して埋納する方法があり、出産・育児に関わるまじないとして明かになっており、よく知られているところである。だが京都市内では平安時代の遺構としてはまだ発見されていない。

【呪詛】この史料としては『宇治捨遺物語』（巻14）で、「藤原道長呪詛のため、道長の出入りする法成寺の門の前に2枚の土器を合わせて埋めたものが発見され…」と記述されている。検出の事例では、(23-⑤)、b-③)がそうではないかとも想定できるが、確認できていない。

【井戸の祭祀】廃棄する時に行なう場合については今回紹介した他に井戸の祭祀は現在でも、「息抜き」と称してパイプ類を立てて井戸を埋めることがよく知られている。これは室町時代前期には確実に行われており、平安後期でもその可能性が認められる。また平安後期を中心とした時期では、井戸の中位辺りに石や土器で蓋をするようにした状態で検出される例がある。確実とは言い難いが、江戸時代でも認められるか？それ以前にはこのような祭祀具などを土砂と共に埋めていたのではないかと推定される。

井戸の造作時にも何らかの祭祀が執り行われていたものと考えられるが、そのような痕跡を示す遺構の検出例は極めて少ない。その例として最近左京二条四坊十町で発見されているようだが、詳細については後の報告に委ねることとする。

井戸に伴う祭祀は当然「水」に関わる祭礼で、日常生活と切り離すことができないと見做せる。水が減少した場合も増水した場合も直接生死に結び付く。それゆえに井戸自体の靈性が付加され、盛んに祭祀が行なわれるようになる。

\* 『今昔物語集』第27巻第27－白井の君の銀提、井入りて取られたること－「井底から得た銀（鏡）に別の銀を足し提（ひさげ）を造った白井の君は、後、来客の下女の過失により元も子も失した。－井戸から出た銀提は井戸神に捧げたものなので、妄りに日常用いるべきではない。」これは③の例に該当するものか？

【辻の祭祀】道路遺構が交差する地点を中心として検出されている。菅見では藤原京から平安京の各都城と多賀城域で検出されていることが報告されている。遺構の種類としては小土坑・甕棺墓があり、後者の場合は小児を納めた棺である。その目的とするところは、境界祭祀である。民俗事例では類似した行為が近年まで行われていたようである。これは境界祭祀とも関係がある。延喜式に出ている道饗祭などの原初的な形態であろう。

【河川の祭祀】長岡京例では、河川の流れる方向に沿って小児棺が埋葬されている。これは河川に対して何らかの意図を持っていたのは明かで、治水に伴う祭祀の例かとも考えている。

そのほか水田（生産）に関わる祭祀遺構が他の遺跡では確認されているようだが、京都市内の報告例はない。

## 6. 都市・集落における祭祀の開始状況

検出された遺構の時期は、平安時代を中心としているためこの時期が最も多いのは当然のことであるが、とくに平安中期をピークとする傾向が認められるようである。

都城域での祭祀…平城京では家屋・井戸や出産に関わる遺構の報告がある。辻に伴う事例も藤原京以来行われていた形跡が認められる。宅地の占有に関する祭祀遺構は、平安京以前の段階では殆ど認められない。明らかになっている分に関しては、平安京でも9世紀後半以降に出現するようになり、10世紀前後を中心とした時期が最も検出量が多い。これは祭祀遺物とくに呪符木簡を題材として取り扱ったとき、このころには急激に減少することが明かとなっている。つまり祭祀遺物を中心とする形態から埋納遺構を中心とする祭祀形態への変化が明瞭に読み取れるのである。

柱穴埋納に関しては、平安京（京都市内）では報告されている例の殆どは柱を抜き取った後に土器などを埋納する方法である。つまり家屋が廃棄された時点での祭祀形態であると言えよう。これは長岡京の時期でも検出されているとの報告があるため、少なくとも8世紀末には行なわれていた祭祀の作法であると考えている。これに対して家屋を建築するときに行った形跡は、平安時代以前のかかなり古い時期にまで遡ることが出来るかと思うがまだ確認していない。

寺院での祭祀…鎮壇具の埋納は飛鳥時代から認められる。建物に関する祭祀行為も比較的早い時期に出現しており、北野廃寺、檜原廃寺、北白川廃寺では平安京における同種の遺構よりも早く出現することが明かとなった。これは最新の知識を世俗よりも早く導入することができる立場にあったためであろう。

集落での祭祀…上ノ段町、植物園北遺跡での検出例は集落内での一事例かと思われるが、まだ論議の対象とするまでのデータがないのが現状である。

## 7. おわりに

本報告では京都市域内で発見された、祭祀・呪術に関わる遺構の集成を試みたものである。資料の集成という観点からすれば、対象地域の範囲を広げる必要があることは承知している。しかしそれは個人の力量の範囲を越えているためと、とりあえず個人の作業として可能な所から着手することを目的として作成したものである。本報告をきっかけとして、祭祀・呪術に関わる遺構の集成を完成できれば幸かと思っている。



### 凡例

- (1) 本稿は1997年末現在までに、京都市内で発見された埋納（祭祀）に関する資料を集成したものである。
- (2) 資料の配列は平安京、長岡京、その他の遺跡の順とした。さらに京内は条坊の地番表示の順、京外は順次配列した。
- (3) <遺構>は遺構の種類、遺構番号、形状、径（辺長）×検出した深さの順である。数字の単位はcmである。
- (4) <位置>は平安京については、土坑の場合（財）京都市埋蔵文化財研究所で算出した町の南西隅の座標値を計算上の原点として、町内における位置（x軸、y軸の順）を%で表示したものである。
- (5) 挿図は、遺跡内の位置（あるいは平安宮内、一町内）・遺構配置図・対象遺構・（遺物実測図、写真）の順に示している。町単位の条坊図は1/2000、地形図は1/5000を原則としているが、その他の図の縮尺は不同である。
- (6) 対象とする時期は平安時代を中心として選定している。これに平安以前の各時代と中世の一部を加えている。中世以降は特異なあるいは特筆すべき遺構については、参考資料として挙げることにした。遺構の時期は報文に依拠している。
- (7) 調査事例の増加や研究の深化に伴って認識の見直しも必要とされるかと思われるが、調査担当者が埋納遺構あるいは祭祀に関する遺構であると報告している事例については、一部を除いてほとんどを挙げている。またそうでない場合でも、その可能性が認められるものについても挙げておいた。
- (8) 引用・参考文献は後に一括して掲載しておいたので参照されたい。なお調査報告では執筆者が連名の場合、初出の者を報告者とした。
- (9) 資料の収集に際して、調査担当者のほか（財）京都市埋蔵文化財研究所職員の協力を得た。また本稿の作成に当たっては小倉万里子氏の協力を得た。

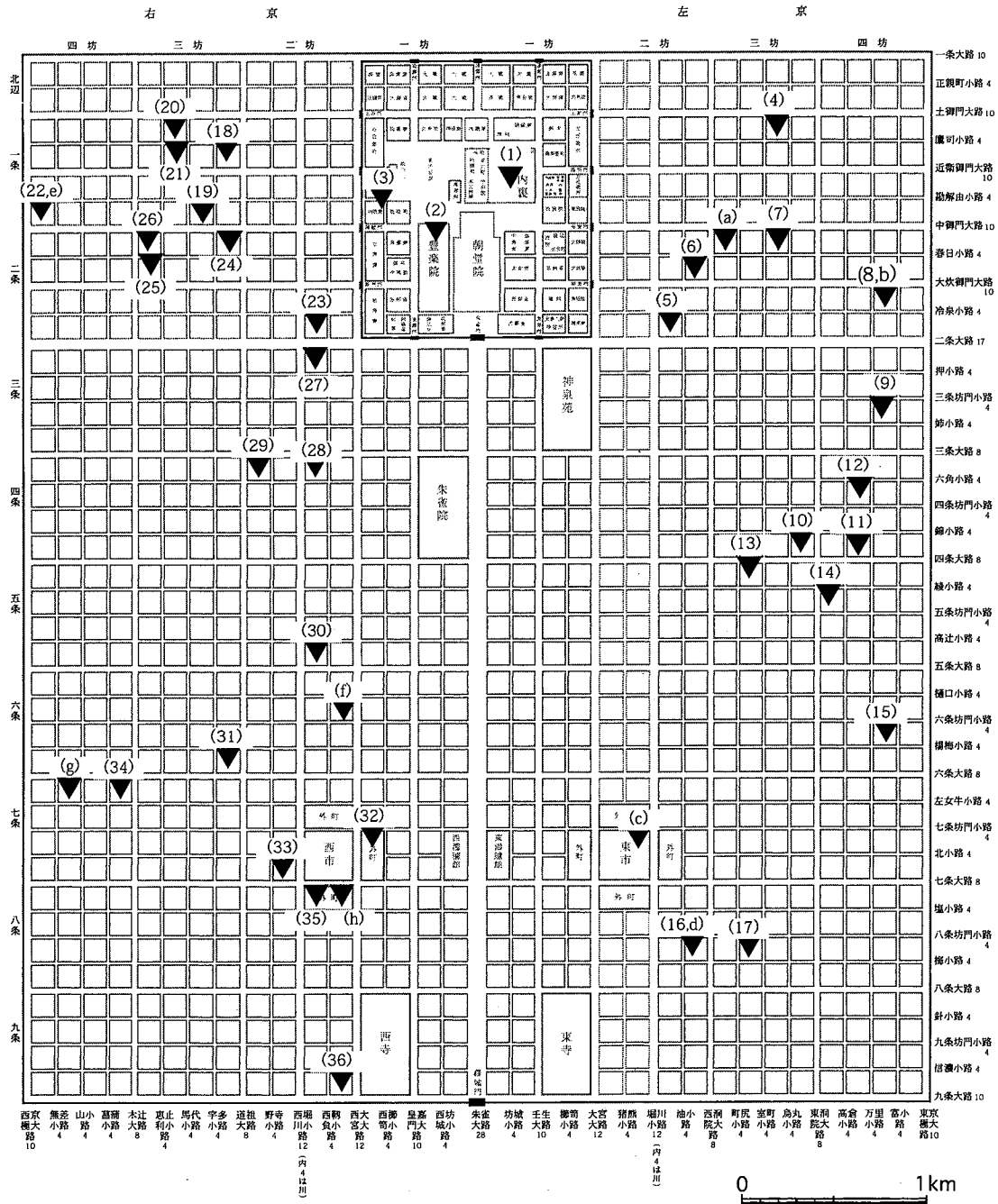


図2 埋納（祭祀）遺構検出地点（平安京）

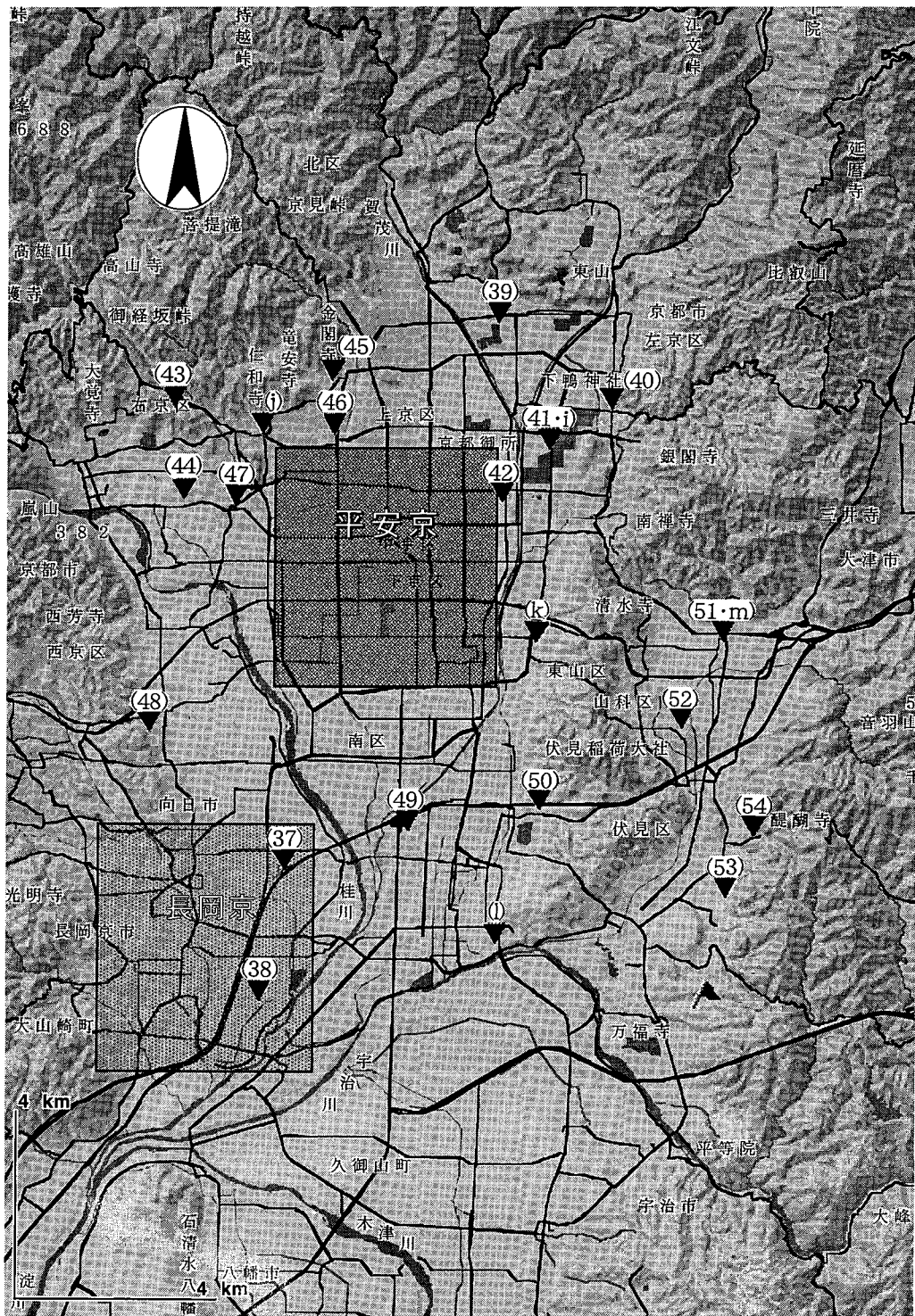


図3 埋納（祭祀）遺構検出地点（平安京を除く）

(1) 平安宮・内裏

①	遺構	土坑（遺構76、長方形、90~120×70）	時期	11世紀中~後
	出土遺物	輪宝、楸、金粉、銀切板、ガラス玉、琥珀片、土師器、白色土器		
	埋納状況	破断した楸の尖頭部分が輪宝の中央穴に突き刺さったまま残存。南方に土器類を並べ置く。		
	関連遺構	北雨落62	位置	承明門の北側

②	遺構	土坑（遺構78、円形、40×25）	時期	11世紀末
	出土遺物	土師器杯（2）、皿、須恵器壺、ガラス玉		
	埋納状況	杯、皿を重ね置き、その上に壺を正位に置く。		
	関連遺構	北雨落62	位置	承明門の北側

③	遺構	土坑（遺構80、方形、40×50）	時期	9世紀中
	出土遺物	土師器杯、皿、珊瑚片		
	埋納状況	後に判明したものであるが、底に宝物を納入する木製容器を据え置き、その上に土器を放り込んだ様子が復元される。		
	関連遺構	北雨落62	位置	承明門の北側

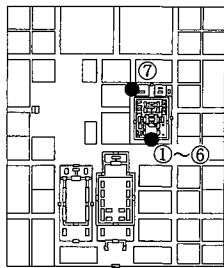
④	遺構	土坑（遺構83、円形、30×？）	時期	9世紀中
	出土遺物	須恵器壺		
	埋納状況	壺を若干横倒して置く。		
	関連遺構	北雨落62	位置	承明門の北側

⑤	遺構	土坑（遺構87、円形、30×7）	時期	11世紀前
	出土遺物	土師器杯・皿		
	埋納状況	底に皿（2）を置き、皿で蓋とする。その上に杯を置く。		
	関連遺構	北雨落62	位置	承明門の北側

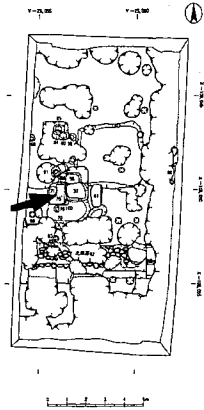
⑥	遺構	土坑（遺構87、長方形、140~280×40）	時期	平安
	出土遺物	土師器甕、須恵器小壺		
	埋納状況	遺構78の真下に甕が横位で出土		
	関連遺構	北雨落62	位置	承明門の北側
	備考	遺構78と時期差はほとんどない		

⑦	遺構	土坑（土壙3、円形、2.1×1.3）	時期	平安・後期
	出土遺物	炭		
	埋納状況	土坑の中位に炭の単純層を検出。		
	関連遺構	不明	位置	内裏の北西コーナー付近

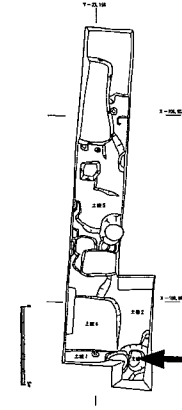
参考文献…①~⑥梅川1980、1985 ⑦網1990、①~⑦京都市埋文1995



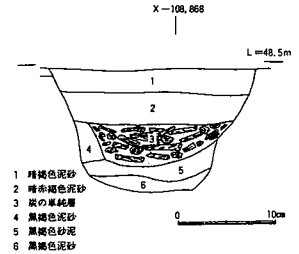
調査位置図



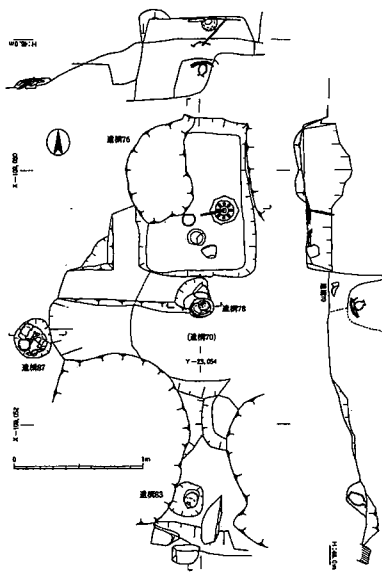
調査区平面図 (①~⑥)



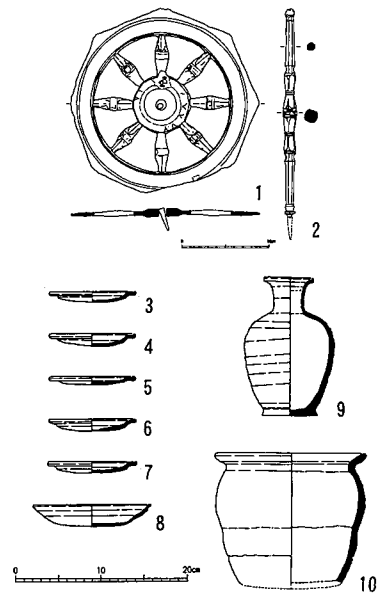
調査区平面図 (⑦)



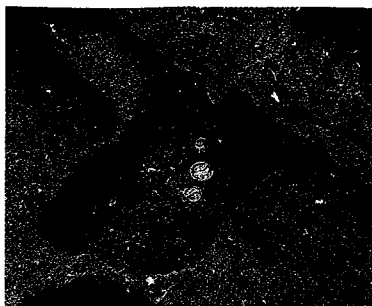
土壌3断面図



遺構配置図 (①~⑥)



出土遺物 (1・2: 遺構76、3~8: 遺構87、9: 遺構83、10: 遺構70)



①



②

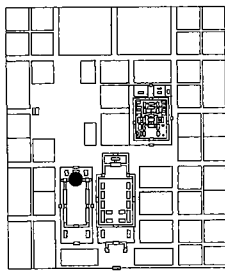


遺構配置全景

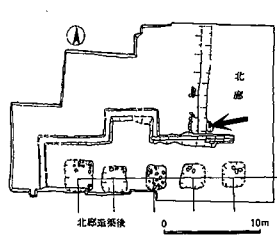
(2) 平安宮・豊楽院

遺構	土坑（土壙3、円形、30×20）	時期	平安・前期
出土遺物	白色土器皿、三足盤		
埋納状況	坑底に白色土器皿2点を正置し、その上に白色土器三足盤1点を蓋のように被せる。		
関連遺構	豊楽殿北廊	位置	豊楽殿と清署堂をつなぐ北廊基壇の西端。

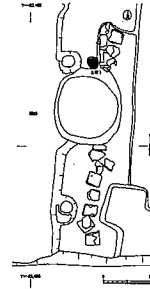
参考文献…鈴木1989、同1991、京都市埋文1995



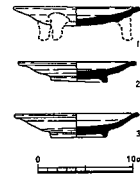
調査位置図



調査区平面図



土壙3実測図

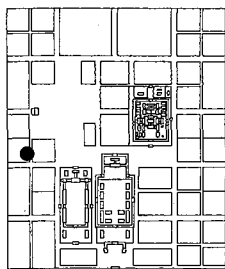


出土遺物

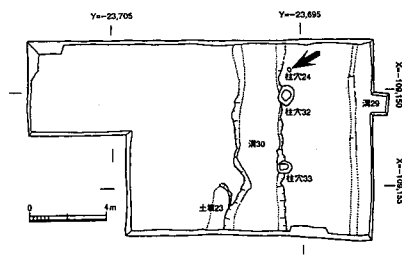
(3) 平安宮・内匠寮

遺構	土坑（pit24、円形、20×15）	時期	平安・中期
出土遺物	土師器杯		
埋納状況	土器を西肩に立てかけるように据える。		
関連遺構	SD30	位置	内匠寮の東端

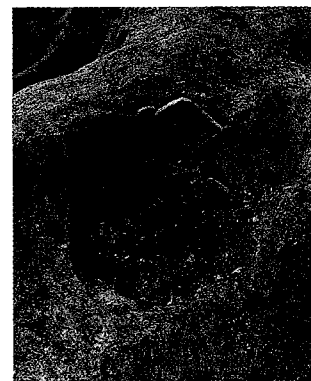
参考文献…堀内1989a、同1993、京都市埋文1995



調査位置図



調査区平面図



(4) 平安京・左京一条三坊九町

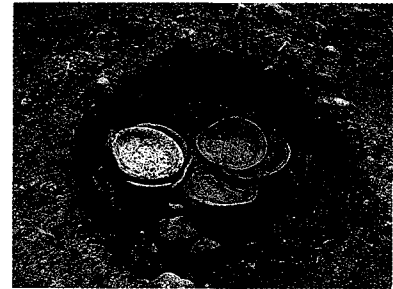
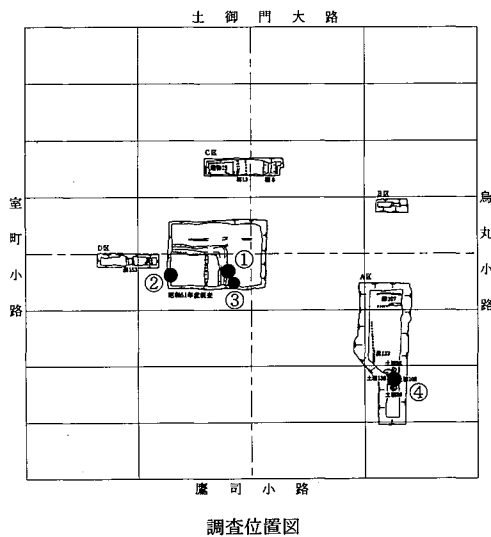
遺構	土坑（土壙230、円形、40×40）	時期	11世紀
出土遺物	土師器皿6		
①埋納状況	底に礫を置き、その上に皿を伏せて据える。		
関連遺構	一町の中央	位置	46.4、45.3

遺構	土坑（土壙255、円形、35×6+）	時期	11世紀
出土遺物	土師器皿		
②埋納状況	皿を合わせ口にして埋置。		
関連遺構	不明	位置	46.2、32.6

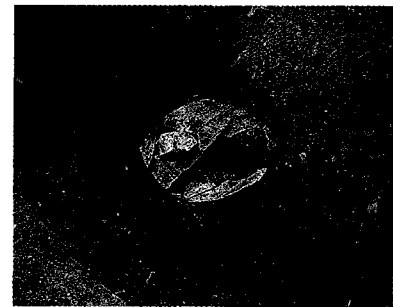
③	遺構	土坑（土壙291、円形、40×40）	時期	11世紀
	出土遺物	土師器皿6		
	埋納状況	皿を上向きにして埋置。		
	関連遺構	不明	位置	45.1、38.9

④	遺構	土坑（SK108、円形、30×？）	時期	平安・中～後期
	出土遺物	須恵質壺		
	埋納状況	単体の壺を正位に立てかける。		
	関連遺構	不明	位置	22.9、81.4

参考文献…①～③本1986、④前田1993



①



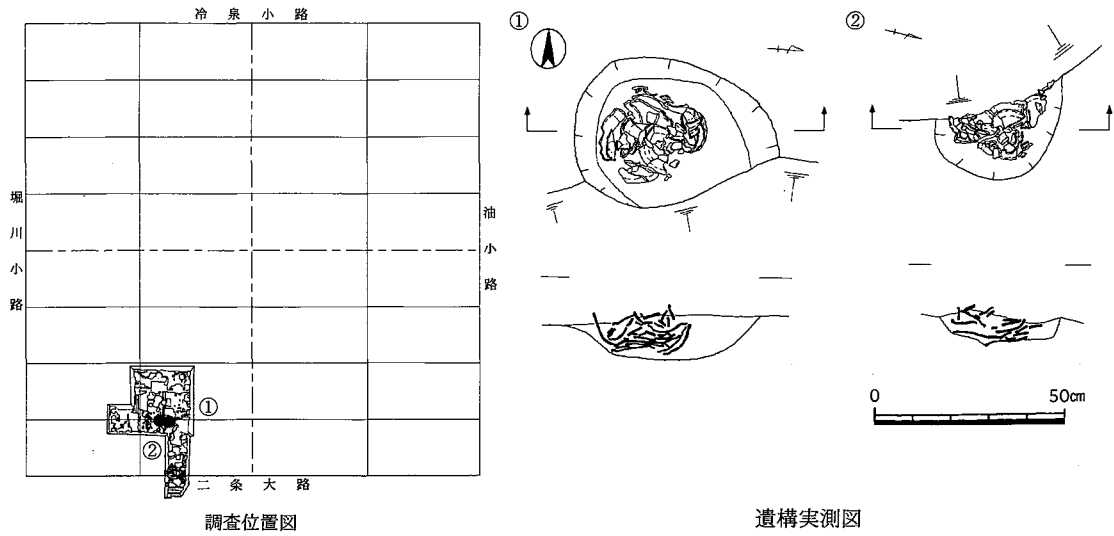
②

(5) 平安京・左京二条二坊十二町

①	遺構	土坑（土壙170、円形、35×12）	時期	11世紀前半
	出土遺物	土師器皿		
	埋納状況	土師器皿を十数枚重ねる。		
	関連遺構	四行八門	位置	13.1、30.7

②	遺構	土坑（土壙171、円形、50×12）	時期	11世紀前半
	出土遺物	土師器皿		
	埋納状況	土師器皿を十数枚重ねる。		
	関連遺構	四行八門	位置	14.0、29.9

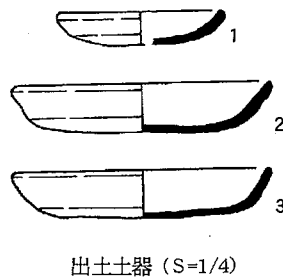
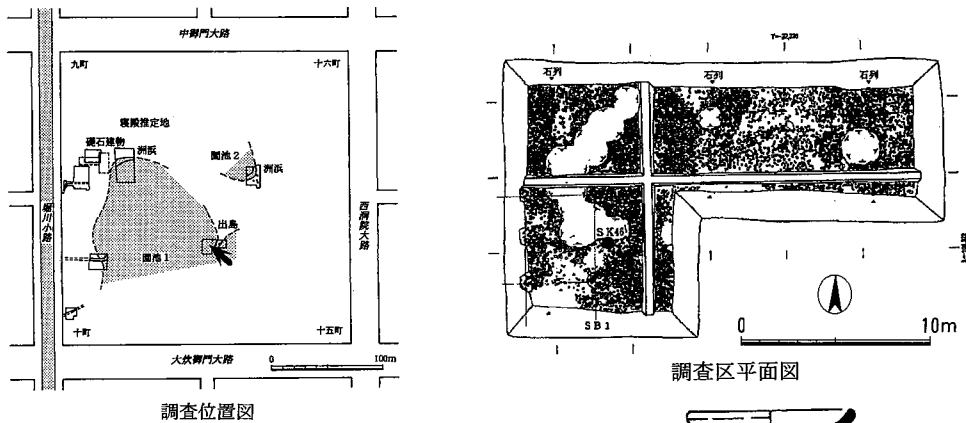
参考文献…①②山本1994



(6) 平安京・左京二条二坊十五町（高陽院）

遺構	土坑 (SK46、円形、80×?)	時期	平安・後期
出土遺物	土師器皿		
埋納状況	土師器皿が4枚重なって出土。		
関連遺構	SB1?	位置	67.9、5.7

参考文献…網1994a、同1998



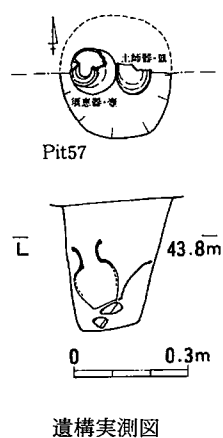
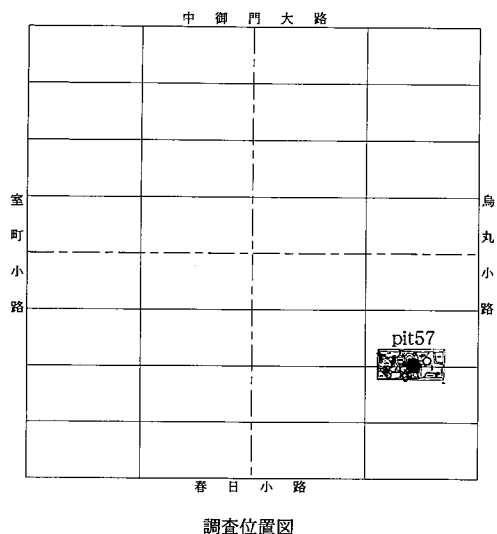
出土土器 (S=1/4)

(7) 平安京・左京二条三坊九町

遺構	土坑 (ピット57、円形、30×34)	時期	平安・後期
出土遺物	土師器皿、須恵器壺、礫		
埋納状況	底に礫を置き、その上に壺と皿を立てかける。		
関連遺構	SB1?	位置	67.9、5.7

参考文献…京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会1981

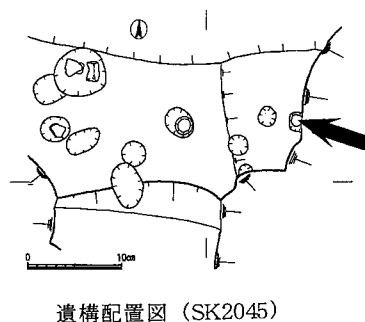
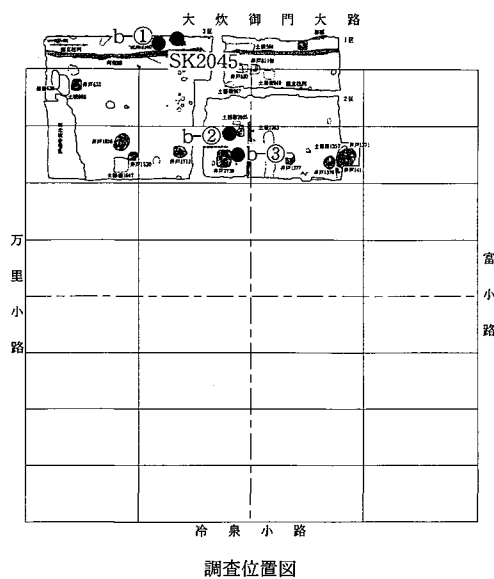




(8) 平安京左京二条四坊十一町 → (b) を参照

遺構	土坑 (SK2045、方形、20×30)	時期	平安・中期
出土遺物	黒色土器甕、猿面硯		
埋納状況	土坑の中に甕を据えて、その上に硯で蓋をしていたようである。		
関連遺構	大炊御門大路	位置	106.5、30.1

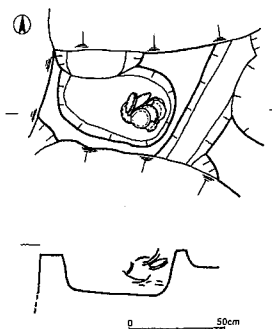
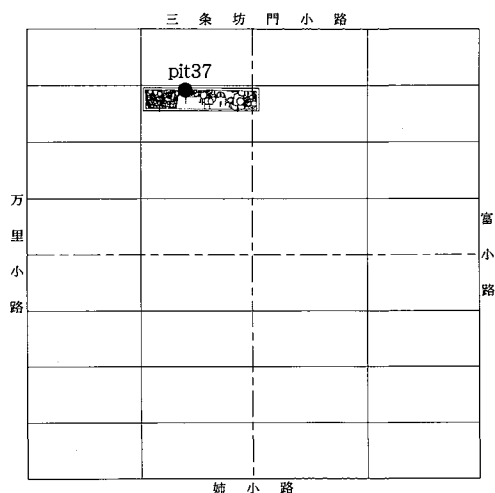
参考文献…堀内1996a



(9) 平安京・左京三条四坊十一町

遺構	土坑 (pit37、円形、55×25)	時期	平安・中期後半
出土遺物	土師器皿		
埋納状況	土師器皿数枚を重ね置く。		
関連遺構	不明	位置	86.3、34.2

参考文献…小森1993



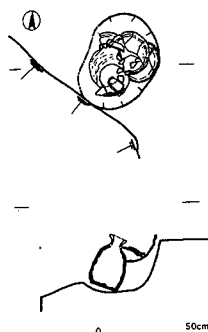
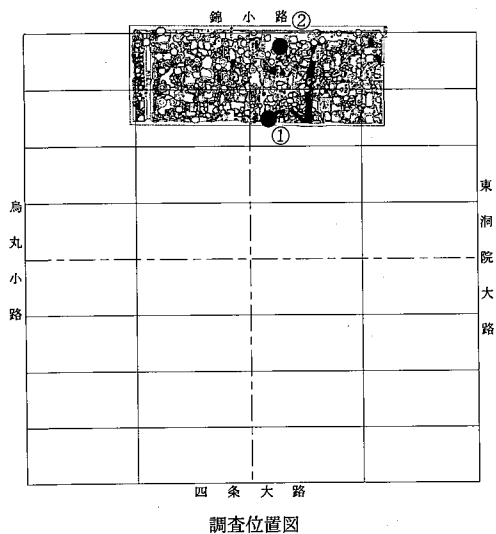
調査位置図・遺構実測図

(10) 平安京・左京四条三坊十三町

遺構	土坑 (ピット295、円形、30×?)	時期	12世紀
出土遺物	土師器皿、須恵器瓶子		
① 埋納状況	皿を数枚埋置し、その横に瓶子を立てかける。		
関連遺構	不明 (一町を中心?)	位置	81.8、54.7

遺構	土坑 (ピット310、円形、26×15)	時期	11世紀
出土遺物	土師器皿、須恵器瓶子		
② 埋納状況	皿を数枚埋置し、その横に瓶子を立てかける。		
関連遺構	不明	位置	97.8、57.7

参考文献…小森1994



遺構実測図 (2)



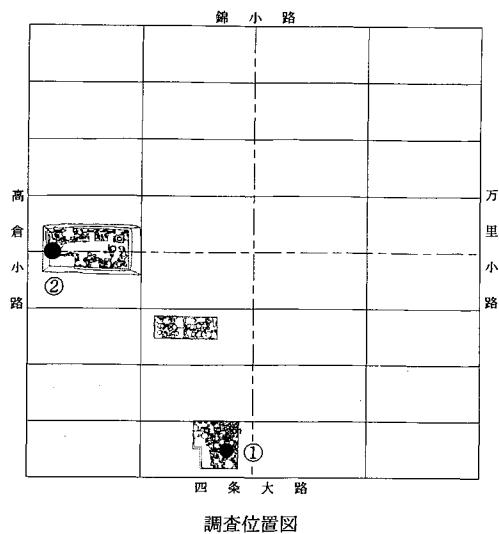
②

(11) 平安京・左京四条四坊五町

遺構	土坑 (土壙14、円形、30×37)	時期	平安・前期後半
出土遺物	土師器甕、灰釉陶器皿		
① 埋納状況	甕を正位に、皿を逆位に据え置く。本来は甕の上に皿で蓋をしていたか。		
関連遺構	不明	位置	6.2、44.0

遺 構	土坑 (SK341、円形、30×?)	時 期	平安中期
出土遺物	須恵器瓶子		
② 埋納状況	須恵器瓶子を立てて据える。		
関連遺構	町内南北のセンター	位 置	49.6、4.8
備 考	境界に関する祭祀		

参考文献…①長戸1998、②木下1994



調査位置図



遺構実測図 (①)



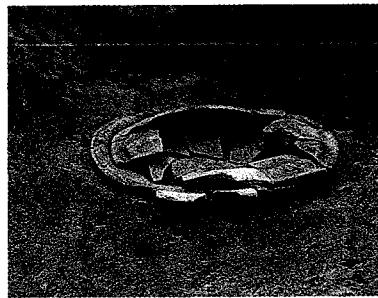
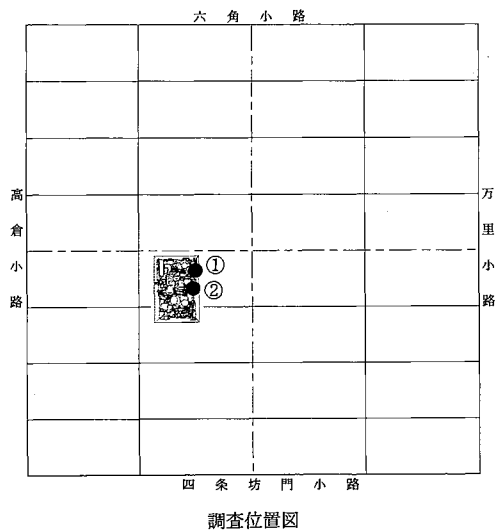
②

## (12) 平安京・左京四条四坊七町

遺 構	土坑 (pit 121、円形)	時 期	平安・中期後半
出土遺物	土師器皿		
① 埋納状況	完形の土師器皿を埋置。		
関連遺構	南北溝2の西肩	位 置	43.7、34.6

遺 構	土坑 (pit 122、円形)	時 期	平安・中期前半
出土遺物	須恵器壺		
② 埋納状況	須恵器壺が1個、口を土器片で蓋をされ直立して埋める。		
関連遺構	南北溝3の西肩	位 置	40.5、34.8

参考文献…①～②小森1989



①



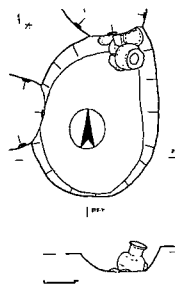
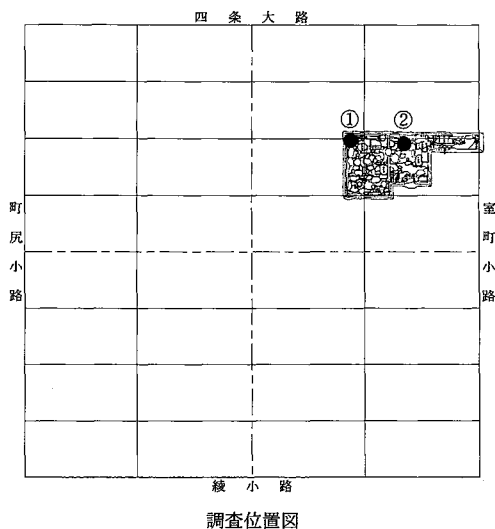
②

(13) 平安京・左京五条三坊八町

遺構	土坑(土壙391、楕円形、60~90×15)	時期	10世紀後半
出土遺物	土師器皿、須恵器小壺		
① 埋納状況	土師器皿を5~6枚を重ねて伏せ、その上に須恵器瓶子を正位置で置く。		
関連遺構	四行八門?	位置	74.2、71.9

遺構	土坑(土壙429、円形、30×25)	時期	10世紀後半
出土遺物	土師器皿、須恵器小壺		
② 埋納状況	須恵器瓶子を正位置で据え、土師器皿で蓋をし、瓶子の傍らに皿を5~6枚を重ね置き、最上部の1枚は反対向けにしている。		
関連遺構	四行八門?	位置	73.6、84.4

参考文献…①~②百瀬1994



遺構実測図(①)

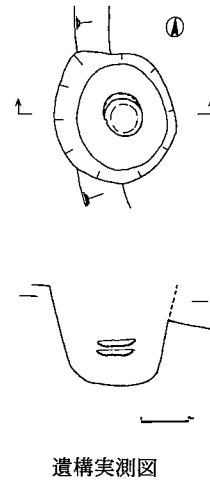
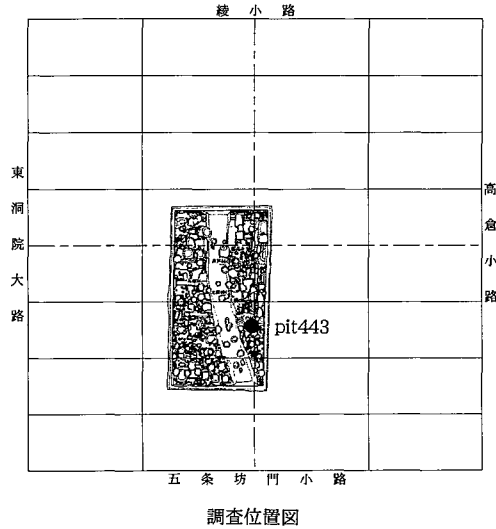


②

(14) 平安京・左京五条四坊二町

遺構	土坑 (pit443、円形、70×26)	時期	平安・後期
出土遺物	土師器皿		
埋納状況	土師器皿2枚を上向きに重ね置く。		
関連遺構	1町の中心	位置	30.6、49.7

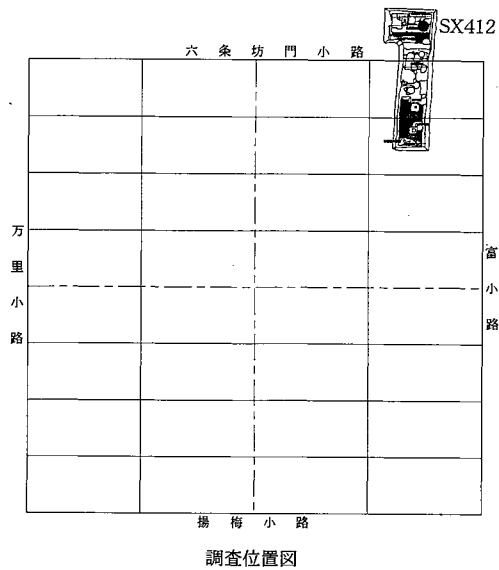
参考文献…長戸1995



(15) 平安京・左京六条四坊十一町

遺構	不明 (SX412、散布、長径約1m)	時期	10世紀中
出土遺物	土師器高杯、木製品ほか		
埋納状況	土坑の中央に高杯を立てて置く。土器の周囲に炭が丸く点在。		
関連遺構	条坊道路	位置	106.6、83.6

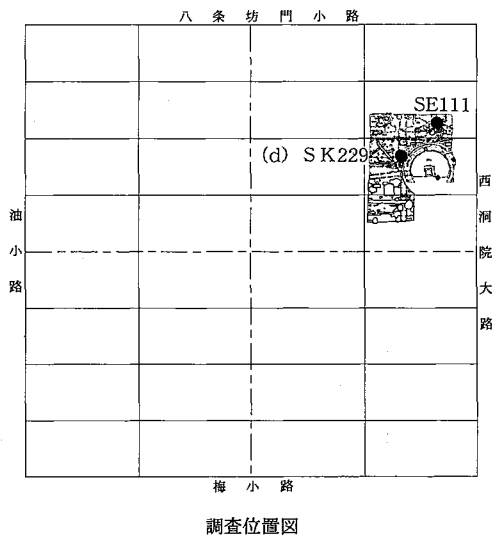
参考文献…堀内1996b



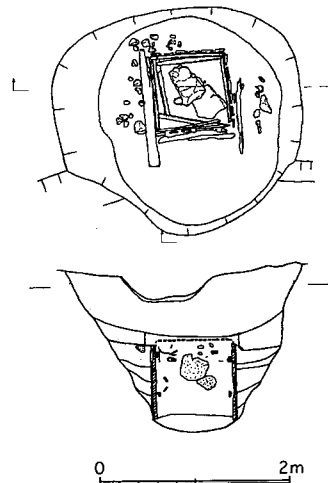
(16) 平安京・左京八条二坊十四町

遺構	井戸 (SE111、方形、80×170)	時期	平安末～鎌倉
出土遺物	巨石・銭貨 (2) ほか		
埋納状況	一辺約80cmの縦板組の方形井戸枠 (底部から約80cm残存) の中に長辺約40cmの石を2個置き、その直上には残存する井戸枠に釘が残っていたため、木板で蓋をしていたことが判明。		
関連遺構		位置	80.1、91.2
備考	井戸廃棄に伴う祭祀		

参考文献…東1998



調査位置図

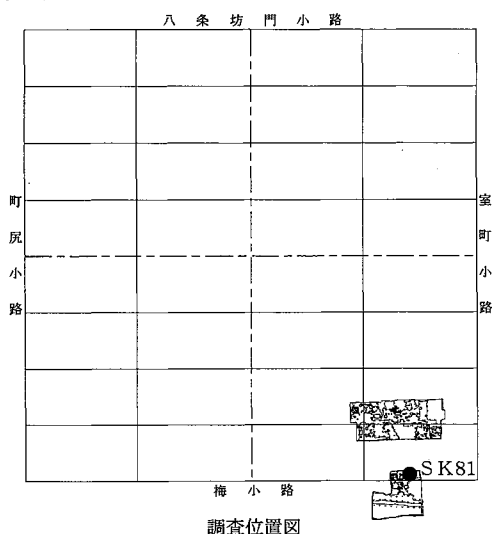


遺構実測図 (SE111)

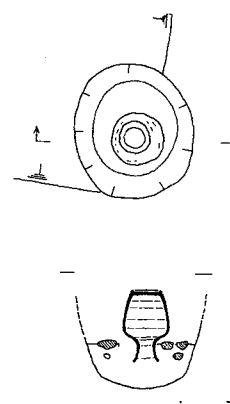
(17) 平安京・左京八条三坊六町

遺構	土坑(SK81、円形、30×20+)	時期	平安・中期
出土遺物	灰釉陶器壺		
埋納状況	灰釉陶器壺を倒立させて据え置く。底部に礫。		
関連遺構	不明	位置	104.3 85.8
備考	南10mで平安後期の路面。		

参考文献…山本1998



調査位置図

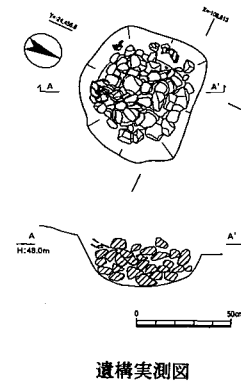
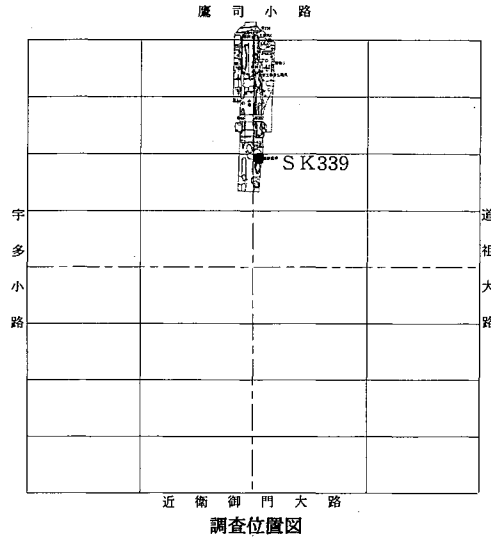


遺構実測図

(18) 平安京・右京一条三坊二町

遺構	土坑 (SK339、方形、60~65×30)	時期	10世紀
出土遺物	土師器皿、須恵器小壺		
埋納状況	底部に拳大の石を充填し、上に皿と壺を据え置く。		
関連遺構	四行八門溝（小径）	位置	73.9、52.4

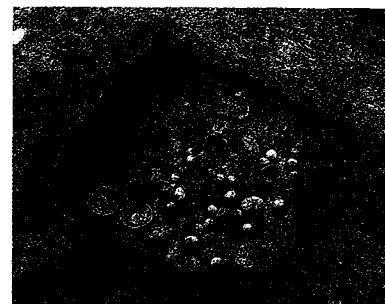
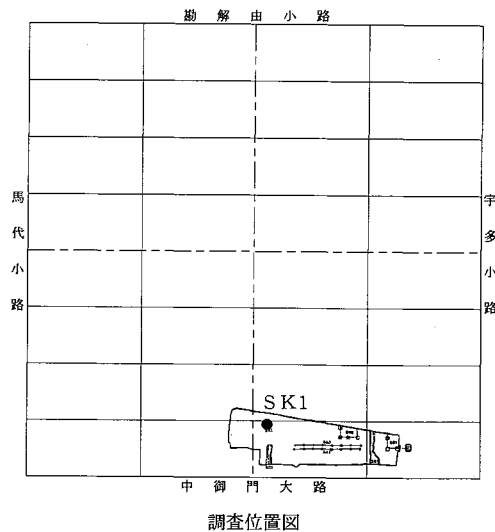
参考文献…久世1998b



(19) 平安京・右京一条三坊五町

遺構	土坑 (SK1、方形、110×25)	時期	平安・中期
出土遺物	土師器、須恵器、鉄製鋤先、鉄製品、延喜通宝、鶏卵状の礫		
埋納状況	坑底に鶏卵状の礫をばらまき、それぞれの遺物を配置する。		
関連遺構	SD2	位置	11.9、54.1

参考文献…吉崎1983



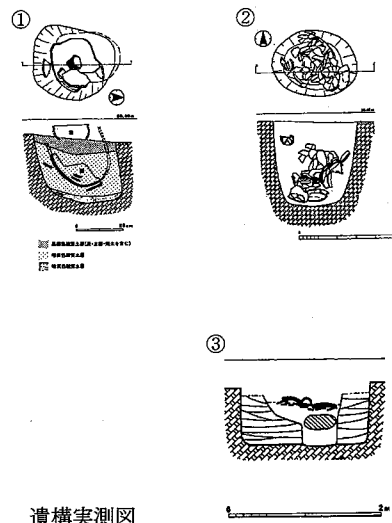
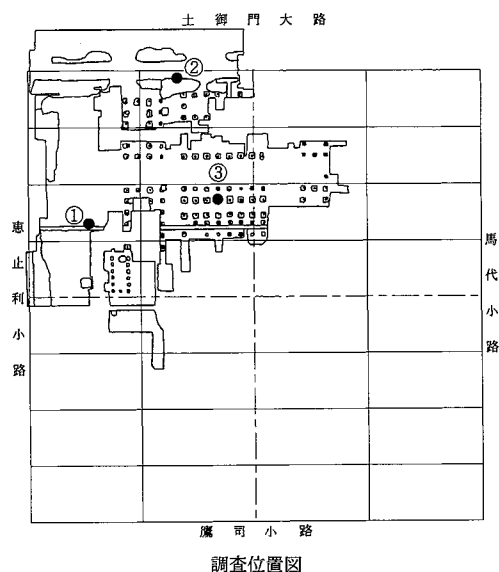
(20) 平安京・右京一条三坊九町

遺構	土坑 (SK94、長円形、45×44)	時期	平安・中期
出土遺物	土師器皿・甕、黒色土器鉢		
① 埋納状況	甕を立てて据える、その上に鉢を立てて据える。		
関連遺構	SA108	位置	65.9、14.1

遺構	土坑 (SK131、円形、34×30)	時期	10世紀
出土遺物	土師器鉢・甕		
② 埋納状況	甕を立てて据える、その上に鉢を立てて据える。		
関連遺構	SD45 (町内溝)	位置	99.1、33.9

遺構	柱穴 (柱抜取穴、170×80)	時期	平安・中期
出土遺物	瓦片、石		
③ 埋納状況	柱抜取穴に瓦片をぎっしり充填する。その下に石で柱穴を塞ぐ。		
関連遺構	SB09	位置	身舎北柱列の中央

参考文献…①～③京都府教委1980、同1981



(21) 平安京・右京一条三坊十町

遺構	柱穴? (SK178、円形、30×23)	時期	平安・中期
出土遺物	土師器皿、黒色土器坏、緑釉陶器皿、灰釉陶器皿		
① 埋納状況	土師器皿数枚を置き、その周囲に土器片を立てて囲む。		
関連遺構	不明。町内溝の肩部。	位置	74.9、93.7

遺構	柱穴? (SK216、円形、30×?)	時期	平安・中期
出土遺物	緑釉陶器皿・緑色基石状1		
② 埋納状況	柱穴抜取穴		
関連遺構	SB220とSB247の中間	位置	73.2、90.4



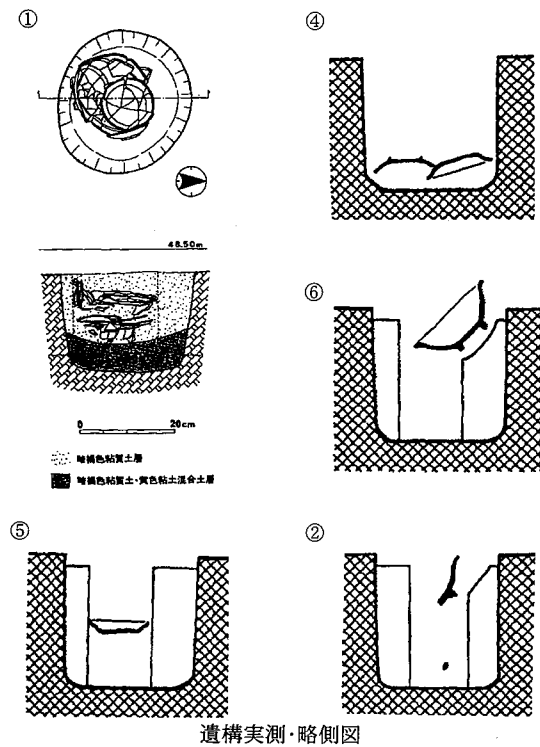
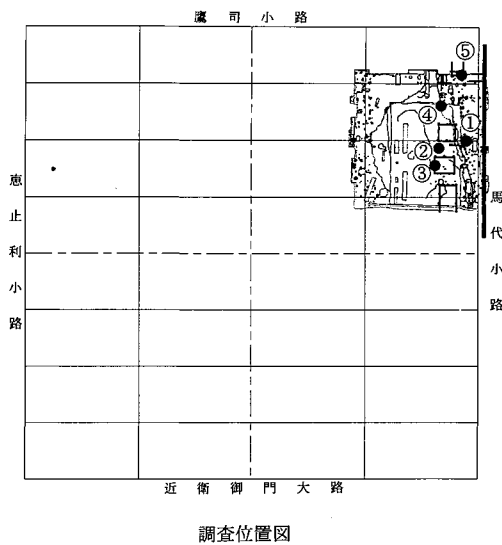
③	遺構	柱穴 (SK220、円形、40×20)	時期	平安・中期
	出土遺物	灰釉陶器坏完形品		
	埋納状況	柱穴抜取穴		
	関連遺構	SB220	位置	西側柱中央

④	遺構	土坑 (SK226、円形、35×20)	時期	9世紀末
	出土遺物	土師器坏・皿		
	埋納状況	土坑の底に据え置く。		
	関連遺構	不明	位置	81.1、90.4

⑤	遺構	柱穴 (円形)	時期	平安・中期
	出土遺物	土師器皿		
	埋納状況	柱穴抜取穴		
	関連遺構	SB256	位置	東南隅柱穴

⑥	遺構	柱穴 (SA273、円形、30×15)	時期	平安・中期
	出土遺物	灰釉陶器坏		
	埋納状況	柱穴抜取穴に埋置		
	関連遺構	SA273	位置	柵の北端

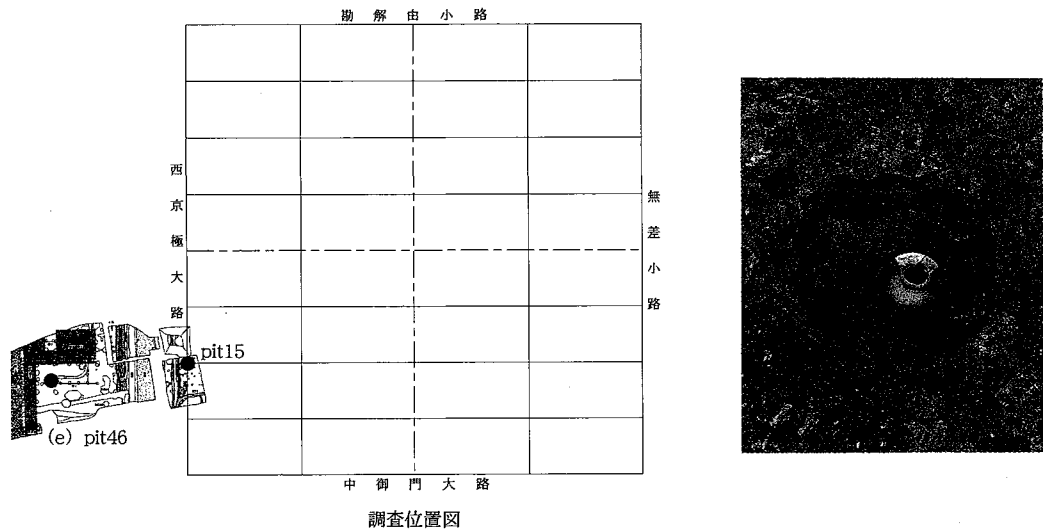
参考文献…①～⑥京都府教委1980、同1981



(22) 平安京・右京一条四坊十三町・法金剛院 → (e) を参照

遺 構	土坑 (pit15、円形、35×20)	時 期	平安・後期
出土遺物	白色土器壺		
埋納状況	想定築地の中心に穿ち、立位で据える。		
関連遺構	条坊築地	位 置	24.0、0.0

参考文献…小松1998



(23) 平安京・右京二条二坊五町

遺 構	土坑 (SK120、円形、80×70×30)	時 期	10世紀末
出土遺物	土師器壺・皿		
① 埋納状況	底部に礫を敷き、その上に壺と皿を据え置く。		
関連遺構	条坊	位 置	3.3、70.3

遺 構	土坑 (SX180、円形、80×30)	時 期	10世紀
出土遺物	土師器壺・皿		
② 埋納状況	底部に礫を敷き、その上に壺と皿を据え置く。		
関連遺構	掘立柱建物SB1	位 置	SB1の西側柱列

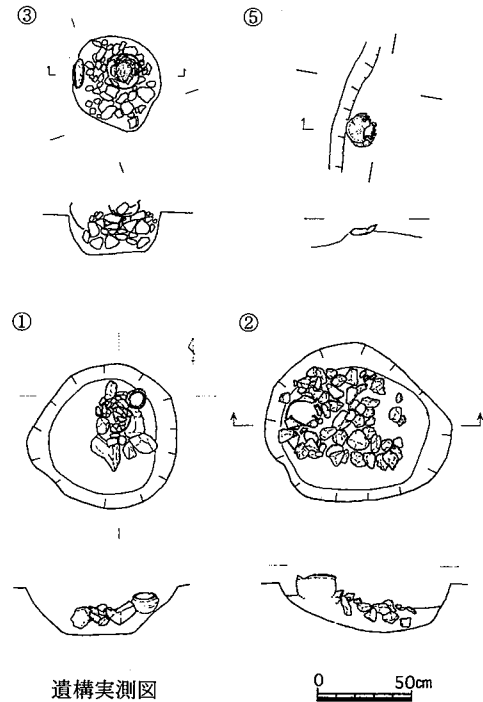
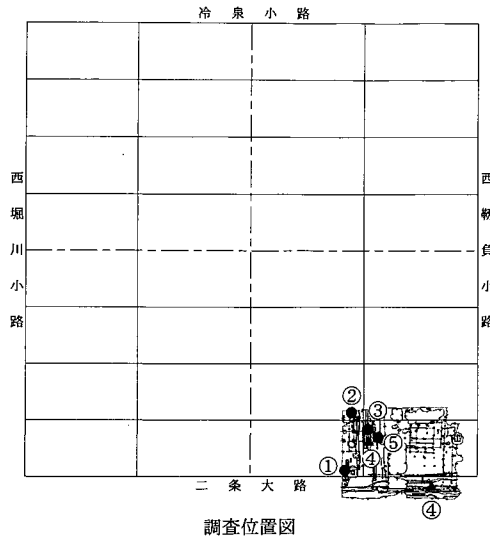
遺 構	土坑 (SX190、円形、40~50×30)	時 期	10世紀
出土遺物	土師器壺・皿		
③ 埋納状況	底部に礫を敷き、その上に壺と皿を据え置く。		
関連遺構	四行八門溝	位 置	12.4、76.1

遺 構	土坑 (p300、円形、27×19)	時 期	10世紀
出土遺物	須恵器小壺		
④ 埋納状況	底部に小壺を横位にして据え置く。		
関連遺構	立柱建物SB3or4	位 置	掘立柱建物の南約 9 m
備 考	小壺内に赤色の小石を納入。 掘立柱建物の西約10mでは白い小石を納入する小壺を検出 (掘形なし)		

遺 構	不明 (SX340、堀形なし?)	時 期	10世紀
出土遺物	土師器皿 (2)		
⑤ 埋納状況	皿2枚を合わせ口にして据え置く。掘形不明。		
関連遺構	四行八門溝?	位 置	10.3、78.2

参考文献…①～⑤東1997



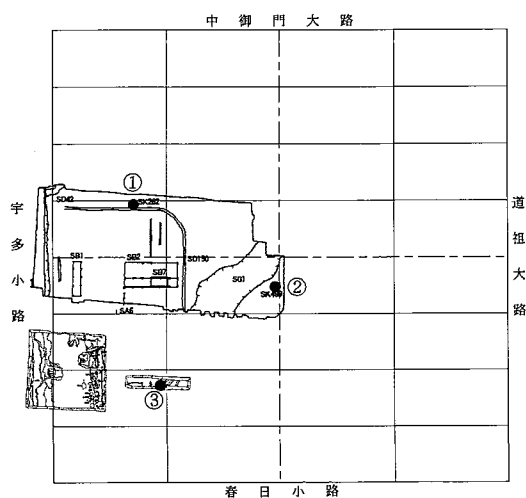
(24) 平安京・右京二条三坊一町

遺 構	土坑 (SK262、方形、80×15)	時 期	10世紀後半
出土遺物	鉄製鋤先・鍬、礫 (10)		
① 埋納状況	鉄製品を底に置き、その上に礫を置く。		
関連遺構	SD149	位 置	61.4、18.4

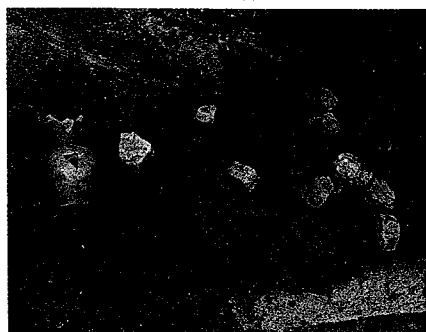
遺 構	土坑 (SK499、方形、90×?)	時 期	平安・中期
出土遺物	須恵器壺、礫 (12)		
② 埋納状況	底に礫を敷き、これと共に壺が横たわる。		
関連遺構	SD344	位 置	44.0、49.1

遺 構	土坑 (土坑、形状不明)	時 期	10世紀前半
出土遺物	須恵器小壺1、腰刀1、鋤先1、銭貨70、小礫		
③ 埋納状況	須恵器壺、腰刀、鋤先を並べて据え置く		
関連遺構	戸主1/4	位 置	24.3、24.3
備 考	担当者は水辺の祭祀と考えている。		

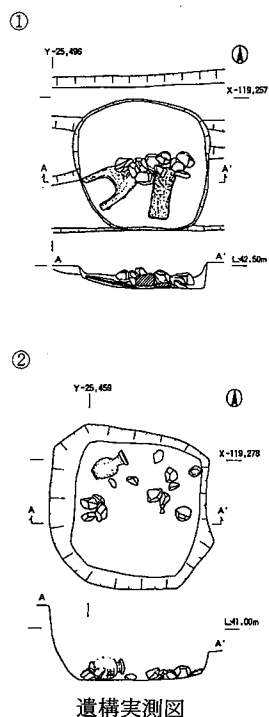
参考文献…①～②堀内1988、③平田1998



調査位置図



③



遺構実測図

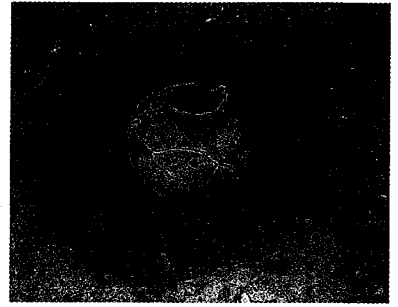
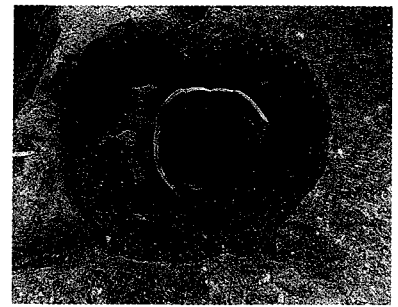
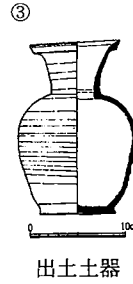
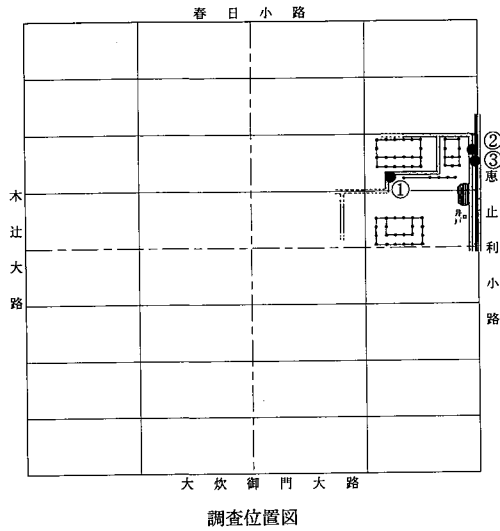
(25) 平安京・右京二条三坊十五町

①	遺構	土坑 (SX24、円形、25×?)	時期	10世紀前半
	出土遺物	須恵器壺、延喜通宝(9)、粟、小礫		
	埋納状況	坑底に礫を敷き、その上に壺を立位に据え置く。中に銭貨を納入。		
	関連遺構	SD14	位置	45.4、79.0

②	遺構	土坑 (SX28、円形、40×?)	時期	10世紀前半
	出土遺物	灰釉陶器壺		
	埋納状況	壺を立位に据え置く。		
	関連遺構	町内溝SD23	位置	47.8、98.4

③	遺構	土坑 (SX29、円形)	時期	10世紀前半
	出土遺物	須恵器壺		
	埋納状況	SX24と同形の壺を立位に据え置く。		
	関連遺構	条坊築地SA27	位置	45.7、98.4

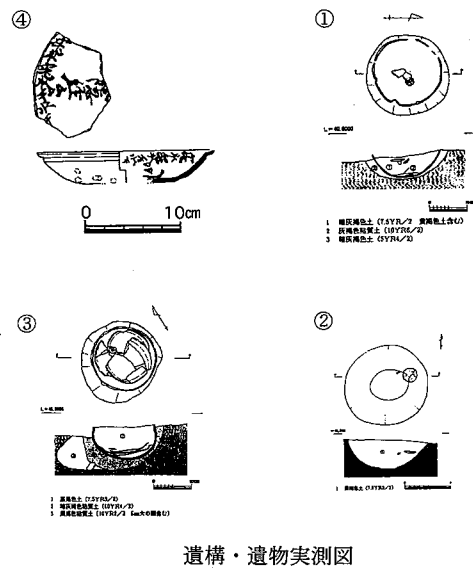
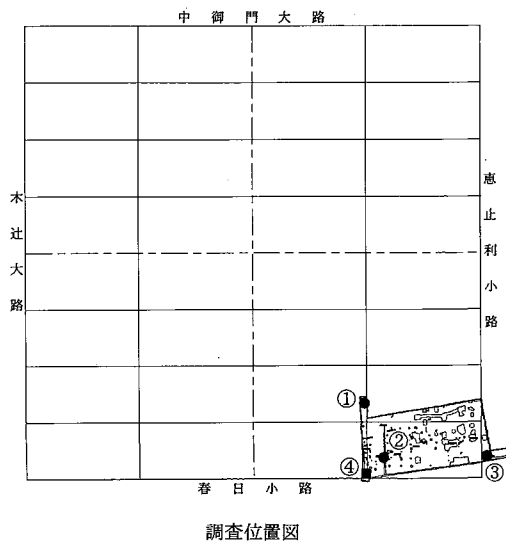
参考文献…①～③平尾1988



(26) 平安京・右京二条三坊十六町

①	遺構	土坑 (SP325、円形、85×30)	時期	平安・中期
	出土遺物	土師器皿、鉄製品		
	埋納状況	土師器皿を上向きに埋置する。		
	関連遺構	四行八門?	位置	17.2、74.7
②	遺構	土坑 (SP395、円形、22×12)	時期	10世紀前半
	出土遺物	土師器甕、銭貨		
	埋納状況	甕を立位に据え、内部に銭貨を納入		
	関連遺構	SD301	位置	5.1、78.4
③	遺構	土坑 (SP396、円形、22×12)	時期	平安・中期
	出土遺物	土師器甕・皿、銭貨		
	埋納状況	甕を立位に据え、内部に皿と銭貨を納入		
	関連遺構	SD301	位置	
④	遺構	井戸 (SE401、方形、80×300)	時期	9世紀末
	出土遺物	土師器皿 (墨書)		
	埋納状況	井戸の底部近くから出土。		
	関連遺構	井戸の祭祀	位置	1.3、73.8
	備考	「天塚大神明」「中央土公水神王」ほか		

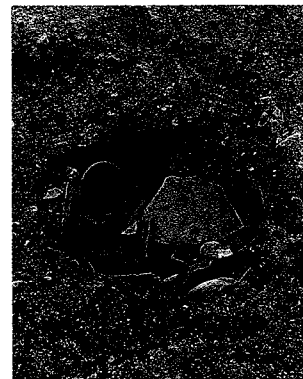
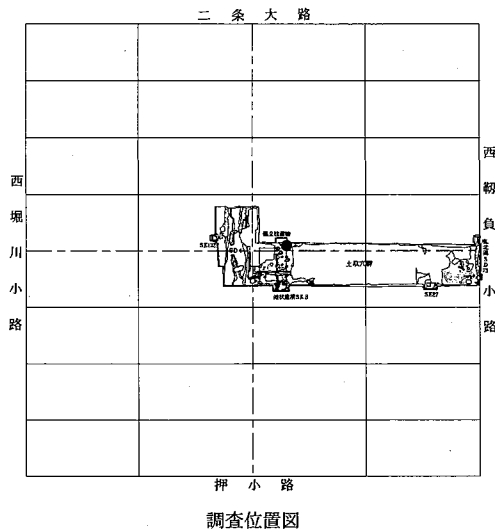
備考…一町における調査区の関係図および位置は、報告書の数値に基づいて配置・計算をした。  
参考文献…①～④花園大学1998



(27) 平安京・右京三条二坊八町

遺構	柱穴 (方形)	時期	平安・中期
出土遺物	土師器		
埋納状況	柱当りに土器を埋置。		
関連遺構	SB 1	位置	身舎北東隅の柱当り
備考	西のSD 1 から木製形代 (蛇形) が出土。		

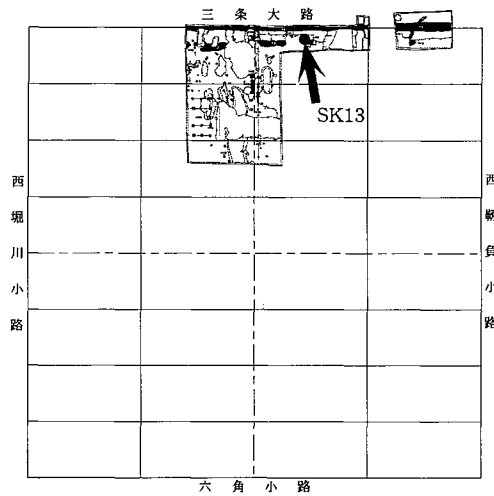
参考文献…堀内1989b



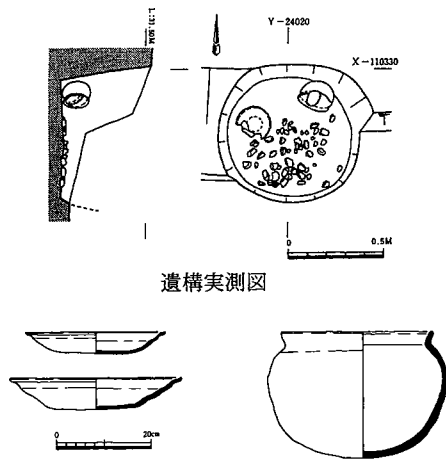
(28) 平安京・右京四条二坊八町

遺構	土坑 (SK13、円形、60×50)	時期	平安・中期
出土遺物	土師器壺・皿、礫		
埋納状況	底部に礫を敷き、その上に土器を置く。		
関連遺構	SX 3 (町内溝)	位置	98.9、63.0

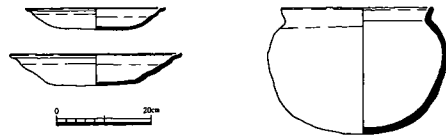
参考文献…長谷川1986



調査位置図



遺構実測図



出土土器

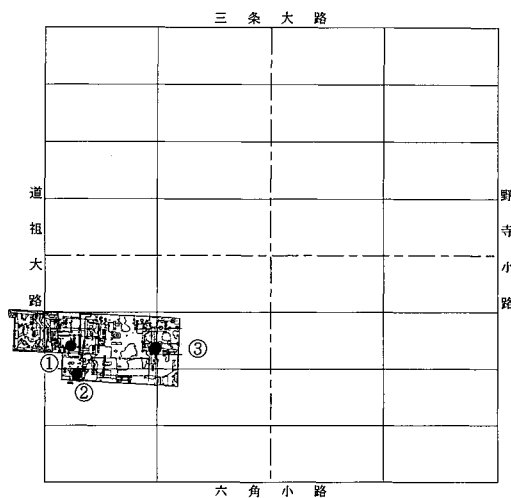
(29) 平安京・右京四条二坊十六町

遺構	土坑 (SK62、円形、33×?)	時期	平安・前期末
出土遺物	土師器甕・高杯、銭貨		
① 埋納状況	底面に甕を正置し、土師器高杯で蓋をする。甕内に銭貨 (70枚) 有り。		
関連遺構	SB3	位置	建物の東柱列の一つに近接

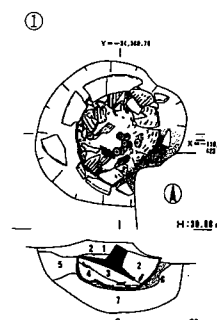
遺構	土坑 (SK63、円形、40×19)	時期	平安・前期末
出土遺物	土師器盤、須恵器鉢		
② 埋納状況	底面に炭を敷く、甕内に銭貨有り、高杯で蓋。		
関連遺構	SB1	位置	建物の南柱列の一つに近接

遺構	柱穴	時期	9世紀後半
出土遺物	土師器盤、須恵器鉢		
③ 埋納状況	柱当に埋納		
関連遺構	SB9	位置	建物の南西隅

参考文献…①～③辻1993

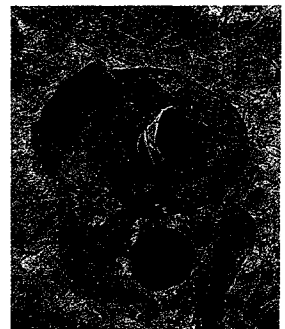


調査位置図



遺構実測図

- 1 褐色砂泥層
- 2 暗褐色砂泥層
- 3 黒色泥土層
- 4 黒褐色泥土層
- 5 褐色砂泥層 (灰含む)
- 6 炭層
- 7 黒褐色砂泥層

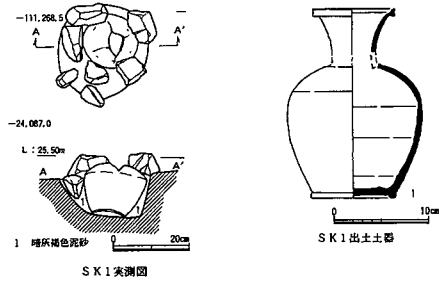
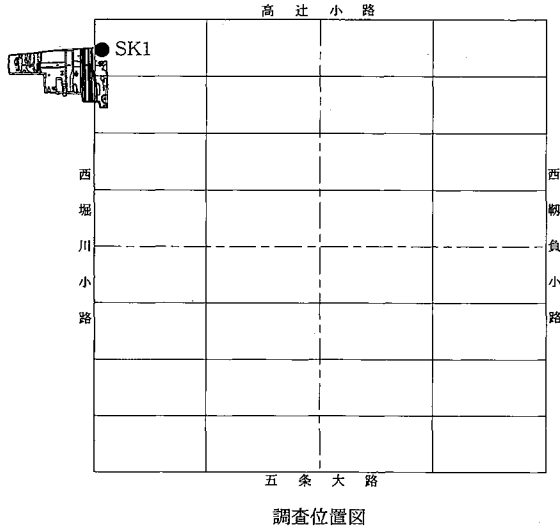


③

(30) 平安京・右京五条二坊五町

遺構	土坑 (SK1、楕円形、22~25×12)	時期	平安・中期
出土遺物	須恵器壺、銭貨		
埋納状況	底に銭貨を置き壺を据える。壺の周囲に川原石を置く。		
関連遺構	一町の西北端	位置	92.5、3.6

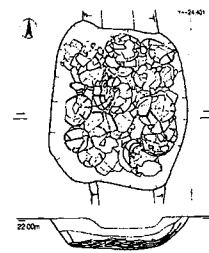
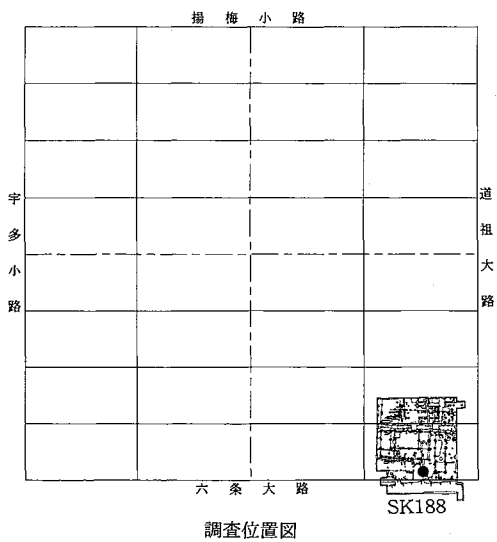
参考文献…堀内1981



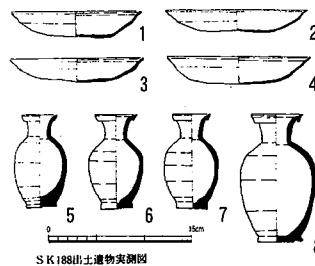
(31) 平安京・右京六条三坊四町

遺構	土坑 (SK188、長方形、90×70×15)	時期	9世紀後半
出土遺物	土師器皿多量、須恵器瓶子6		
埋納状況	多量の皿を上向きに埋置し、所々に瓶子を置く。		
関連遺構	宅地内溝	位置	2.3、88.1

参考文献…菅田1994a



遺構実測図 (SK188)





## (32) 平安京・右京七条一坊十四町

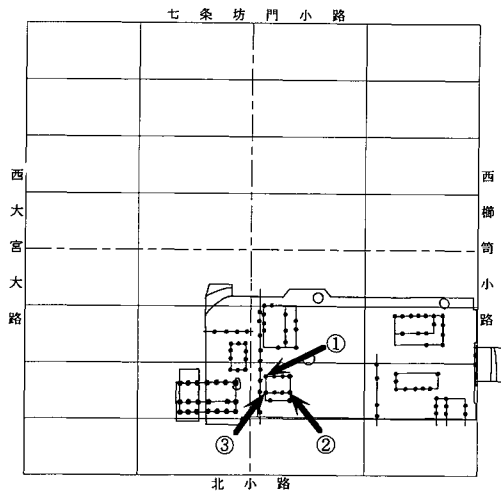
遺構	柱穴（建物10-a、隅丸方形、50×25）	時期	9世紀初
出土遺物	土師器小壺。		
① 埋納状況	柱抜取穴に正位で埋納？		
関連遺構	建物10	位置	身舎の北西

遺構	柱穴（建物10-f、隅丸方形、50×25）	時期	9世紀初
出土遺物	須恵器小壺		
② 埋納状況	柱抜取穴に正位で埋納。		
関連遺構	建物10	位置	身舎の南東

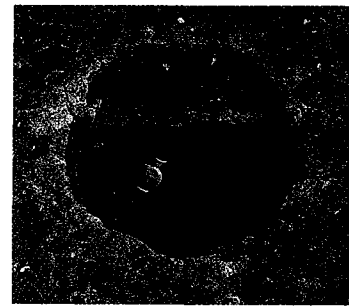
遺構	柱穴（建物10-i、隅丸方形、50×25）	時期	9世紀初
出土遺物	須恵器小壺		
③ 埋納状況	柱抜取穴に正位で埋納。		
関連遺構	建物10	位置	身舎の南西

備考…1棟の建物で3箇所。この形態は平安京で最も早い時期のもの。

参考文献…①～③桜井みどり氏教示



調査位置図



③



出土遺物実測図 (①～③)

## (33) 平安京・右京七条二坊十二町

遺構	柱穴 (pit20、円形、35×20+)	時期	平安・後期
出土遺物	瓦器碗、石		
① 埋納状況	柱当たりにはほぼ完形の碗を立てて埋置。		
関連遺構	不明	位置	

遺構	土坑 (pit178、円形、43×15+)	時期	10世紀初
出土遺物	須恵器壺、土師器皿		
② 埋納状況	底部に石を敷き、須恵器壺据える。		
関連遺構	四行八門	位置	49.0、3.8

③	遺構	柱穴 (pit441、円形、33~44×15+)	時期	
	出土遺物	瓦器椀		
	埋納状況	柱当りに土器をうつ伏せにして据え置く。		
	関連遺構	不明	位置	

④	遺構	土坑 (pit465、円形、40×10)	時期	平安
	出土遺物	石		
	埋納状況	石の平坦面を揃えてならべる。		
	関連遺構	不明	位置	44.0、21.7

⑤	遺構	土坑 (pit504、円形、25×18)	時期	平安
	出土遺物	須恵器長頸壺?		
	埋納状況	壺を立位に据え、その周りに小石を入れ込む。		
	関連遺構	不明	位置	61.3、5.6

⑥	遺構	土坑 (pit552、長円形、45~55×10+)	時期	10世紀中
	出土遺物	須恵器壺、銭貨 (延喜通寶?)		
	埋納状況	坑底に礫を敷き、須恵器壺を据える。壺の内部に銭貨1枚を納入。		
	関連遺構	四行八門	位置	57.4 2.9

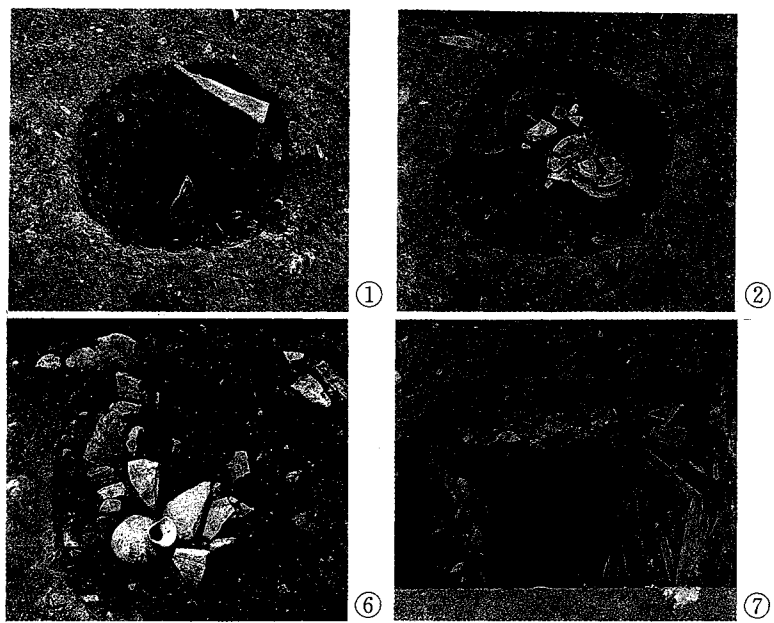
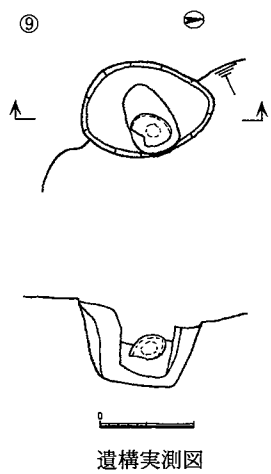
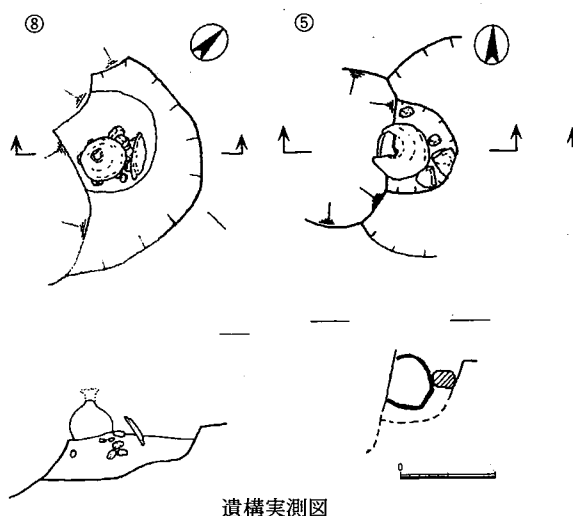
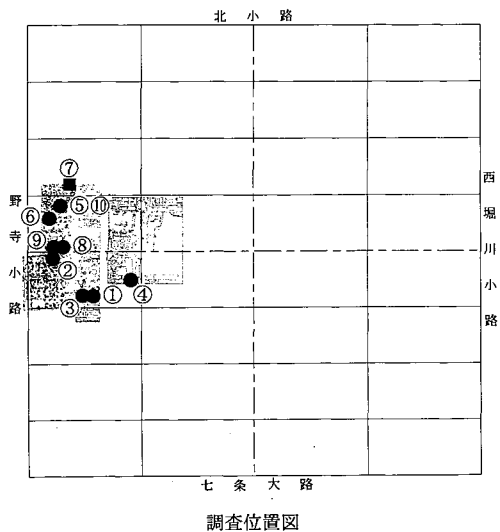
⑦	遺構	井戸 (SE574)	時期	10世紀前半
	出土遺物	須恵器甕ほか		
	埋納状況	井戸の中位に甕腹で蓋をするように据え置く。		
	関連遺構	井戸の祭祀	位置	62.5、19.3

⑧	遺構	土坑 (pit717、円形、55×25)	時期	10世紀後半
	出土遺物	須恵器小壺、土師器皿		
	埋納状況	底部に礫を敷き、その上に須恵器小壺を立位に、土師器皿を立て掛ける。		
	関連遺構	四行八門	位置	51.5、4.2

⑨	遺構	柱穴 (pit718、長円形、25~35×20)	時期	10世紀中
	出土遺物	土師器皿、緑釉陶器皿		
	埋納状況	柱当りに土器を納入する。		
	関連遺構	不明	位置	49.0、3.8

⑩	遺構	土坑 (pit980)	時期	平安・前期後半
	出土遺物	須恵器壺		
	埋納状況	須恵器壺を据える。礫を敷く。		
	関連遺構	四行八門	位置	61.3、5.6

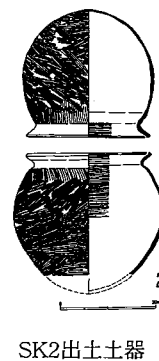
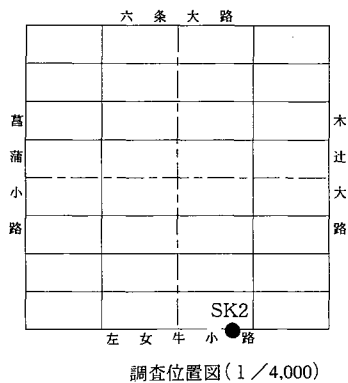
参考文献…①~⑩南出俊彦・小森俊寛氏教示



(34) 平安京・右京七条四坊一町

遺構	甕棺墓 (SK2、確認幅100×深さ30)	時期	9世紀前半
出土遺物	土師器甕 2		
埋納状況	土師器甕を合わせ口にして横に埋置。内容物は確認できず。		
関連遺構	条坊道路	位置	0.3、67.6
備考	立会調査で検出したためプランなどの詳細は不明。		

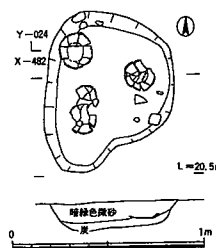
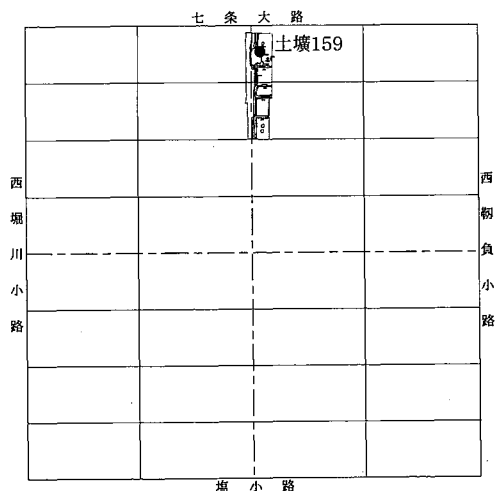
参考文献…家崎1984



(35) 平安京・右京八条二坊八町

遺構	土坑5基 (SK159・248・258・255・261 不定形、65×70)	時期	9世紀後半
出土遺物	土師器皿		
埋納状況	炭層の上面に土器を上向きに置く。		
関連遺構	町内の中心溝	位置	①96.7、52.6 ②94.2、52.6 ③92.9、54.3 ④92.9、53.5 ⑤92.1、52.2

参考文献…菅田1989



調査位置図・遺構実測図

(36) 平安京・右京九条二坊四町

遺構	柱穴 (pit517)	時期	平安・中期
出土遺物	土師器皿		
①埋納状況	柱あたりに完形の皿を上向きに埋置。		
関連遺構	建物SB9	位置	西南隅から二つ目の柱

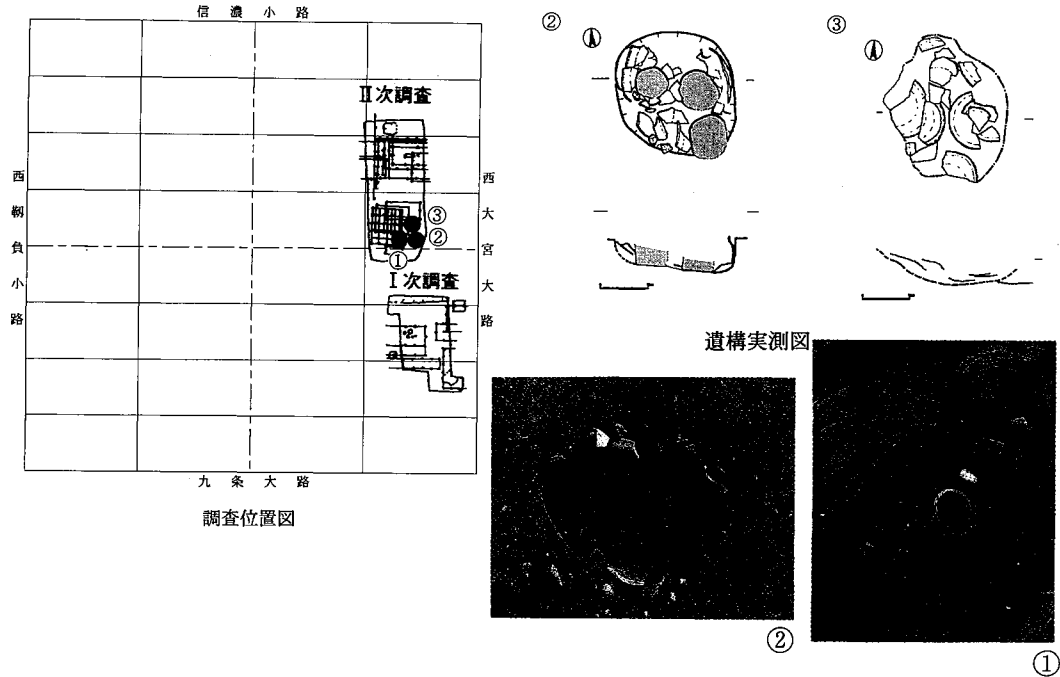
  

遺構	柱穴 (pit522、円形、30×10)	時期	平安・中期
出土遺物	土師器甕		
②埋納状況	土坑の周縁に甕を立てかけるようにして埋置する。		
関連遺構	四行八門?	位置	52.0、86.5

遺構	土坑 (pit630、円形?、30+×7+)	時期	平安・中期
出土遺物	土師器皿		
③埋納状況	下層の皿数枚は正位に、上層の皿数枚は逆位に埋置		
関連遺構	不明 (建物SB7?)	位置	56.7、85.6

参考文献…①～③堀内1988b

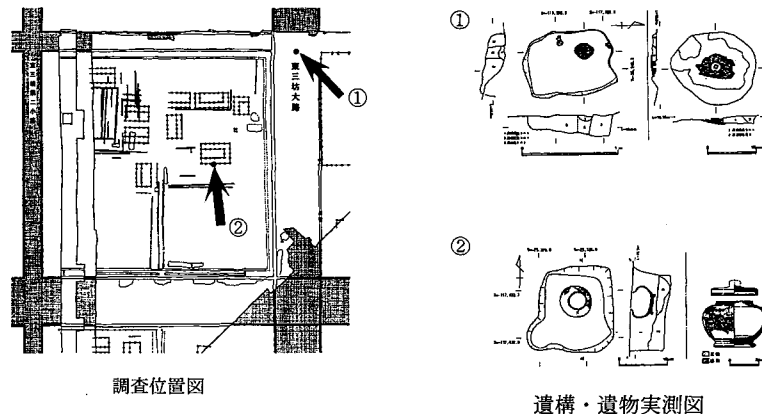


(37) 長岡京・左京南一条三坊十三町

遺構	土坑 (SX361172、方形、60~90×20)	時期	長岡京期
出土遺物	銭貨3 (和同開珎、神功開寶、他)		
① 埋納状況	木箱に納入した痕跡がある。		
関連遺構	東三坊大路	位置	東3坊大路路面で、南1条第2小路南側溝の延長上。
備考	地鎮と報告しているが、「辻の祭祀」と考えたほうがよい。		

遺構	土坑 (SX361172、方形、60~90×20)	時期	長岡京期
出土遺物	二彩小壺。ガラス小玉10		
② 埋納状況	土坑中央に二彩小壺を立位で検出。中にガラス小玉。		
関連遺構	建物SB362116	位置	建物6の南梁行中央に位置する。
備考	地鎮と報告しているが、「宅鎮」と考えたほうがよい。		

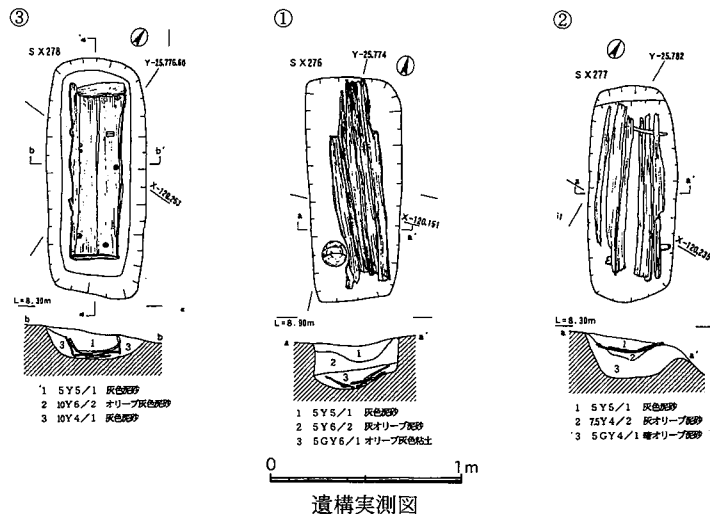
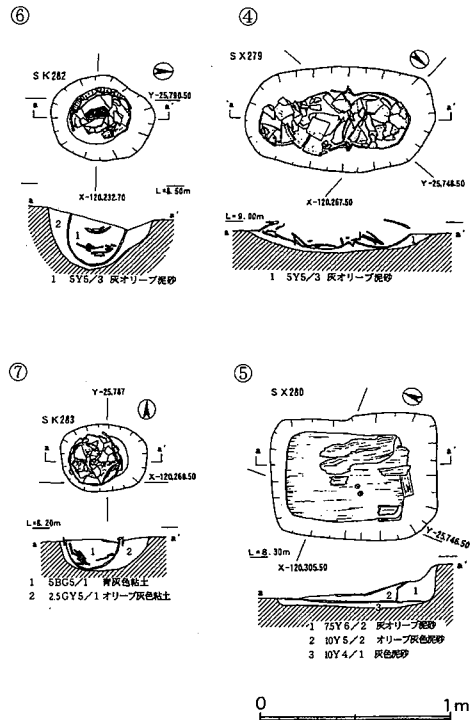
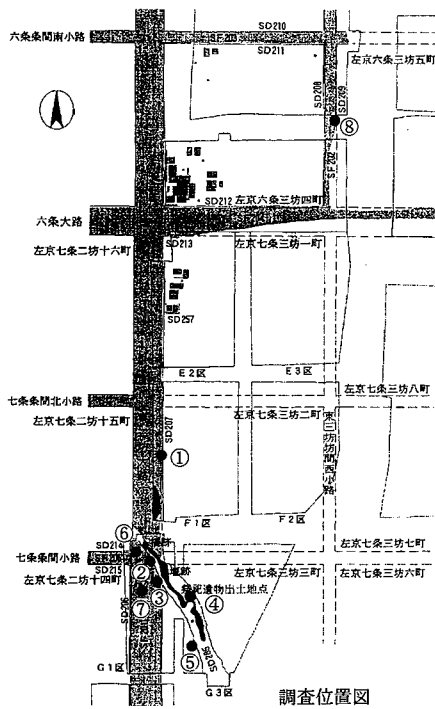
参考文献…①~②京都府埋文センター1997



## (38) 長岡京・左京六・七条二・三坊

①	遺構	木棺墓 (SK277、長方形、120×50)	時期	長岡京期
	出土遺物	土師器椀		
	埋納状況	木棺は100×35に復元できる。		
	関連遺構	道路	位置	東二坊大路路面
②	遺構	木棺墓 (SX277、長方形、110×45)	時期	長岡京期
	出土遺物	副葬品なし		
	埋納状況	棺材のみ。河川肩に接して埋葬。		
	関連遺構	河川	位置	河川の西肩
③	遺構	木棺墓 (SX278、長方形、120×55)	時期	長岡京期
	出土遺物	墨挺、銭貨		
	埋納状況	河川に平行して埋葬。		
	関連遺構	河川	位置	河川の西肩
④	遺構	土器棺墓 (SX279、長円形、100×10)	時期	長岡京期
	出土遺物	土師器甕		
	埋納状況	甕を合口にして埋置。河川に平行して埋葬。		
	関連遺構	河川	位置	河川の東肩。流路内。
⑤	遺構	木棺墓 (SX280、長方形、70~90×20)	時期	長岡京期
	出土遺物	銭貨 2		
	埋納状況	唐櫃を容器とする。		
	関連遺構	河川	位置	河川の西肩に平行
⑥	遺構	土坑 (SK282、楕円形、45~55×30)	時期	長岡京期
	出土遺物	土師器甕、銭貨、横櫛、曲物		
	埋納状況	土師器甕を立位に埋納。中に銭貨・横櫛を納める小型の曲物を据える。		
	関連遺構	道路	位置	交差点より南へ25mの道路中央
⑦	遺構	土坑 (SK283、長円形、35~45×15)	時期	長岡京期
	出土遺物	土師器甕		
	埋納状況	土師器甕を立位に埋納。		
	関連遺構	道路	位置	交差点北側溝を延長した道路中央
⑧	遺構	木棺墓 (SX281、不明)	時期	長岡京期
	出土遺物	棺材のみ (130×40)		
	埋納状況	唐櫃を容器とする。		
	関連遺構	道路	位置	一町中央の側溝内

参考文献…①~⑧京都市埋文研1998、久世1995b

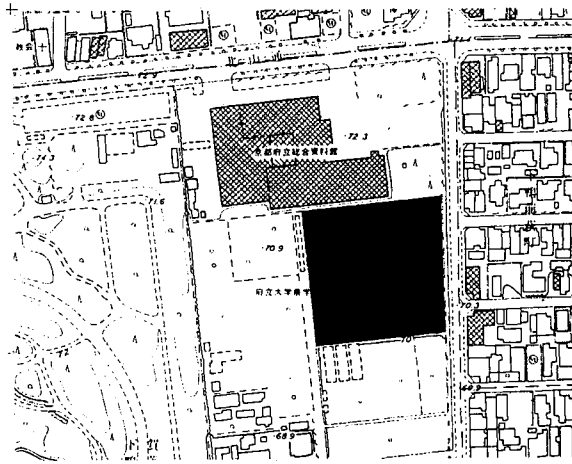


(39) 植物園北遺跡

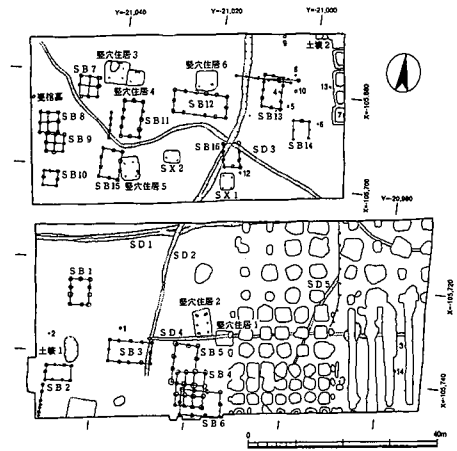
遺構	土坑（埋納遺構1、円形、50×15）	時期	平安・後期
出土遺物	土師器皿		
① 埋納状況	土坑の中央部に楕円形に皿を据え、上端部は4～5枚を単位として周囲に立てかける。		
関連遺構	不明	位置	
遺構	土坑（埋納遺構2、方形、30×20）	時期	平安・前期
出土遺物	土師器皿2、須恵器小壺1		
② 埋納状況	柱当りに石を立位に埋置。		
関連遺構	SB13	位置	建物の北東角の柱

③	遺構	土坑（埋納遺構3、円形、42×38）	時期	平安・後期
	出土遺物	土師器皿		
	埋納状況	柱当たりの中位に石を入れ、上部には皿を上向きに据える。		
	関連遺構	不明	位置	
④	遺構	土坑（埋納遺構4、円形、30×10）	時期	平安・前期
	出土遺物	土師器皿2、須恵器小壺1		
	埋納状況	皿を上向きに据え、その東隣に壺を立てて置く。		
	関連遺構	SB13	位置	南北棟の柱筋中央柱の横に埋置
⑤	遺構	土坑（埋納遺構5、円形、30×10）	時期	平安・前期
	出土遺物	須恵器小壺		
	埋納状況	小壺を立位に据え、横には破片を置く。		
	関連遺構	不明	位置	
⑥	遺構	土坑（埋納遺構6、円形、30～35×15）	時期	平安・前期
	出土遺物	須恵器小壺1		
	埋納状況	小壺（完形）を立位に据える。壺内部には何も無し。		
	関連遺構	SB14?	位置	北側柱筋の延長
⑦	遺構	土坑（埋納遺構7、円形、66×55）	時期	平安・後期
	出土遺物	土師器皿		
	埋納状況	底部に石を据え、皿を置いて、その上に拳大の石を埋置。		
	関連遺構	不明	位置	
⑧	遺構	土坑（埋納遺構8、円形、55×40）	時期	平安・後期
	出土遺物	土師器皿		
	埋納状況	皿2枚を口縁を合わせて埋置、その横には台付き皿を置く。		
	関連遺構	不明	位置	
⑨	遺構	土坑（埋納遺構9、円形、50×30）	時期	平安・後期
	出土遺物	土師器皿		
	埋納状況	皿1枚を上向きに置く。		
	関連遺構	不明	位置	
⑩	遺構	土坑（埋納遺構10、方形、40～45×30）	時期	平安
	出土遺物	土師器		
	埋納状況	柱当たり皿1枚を上向きに置く皿の上には拳大の石を3個覆うようにして据える。		
	関連遺構	不明	位置	

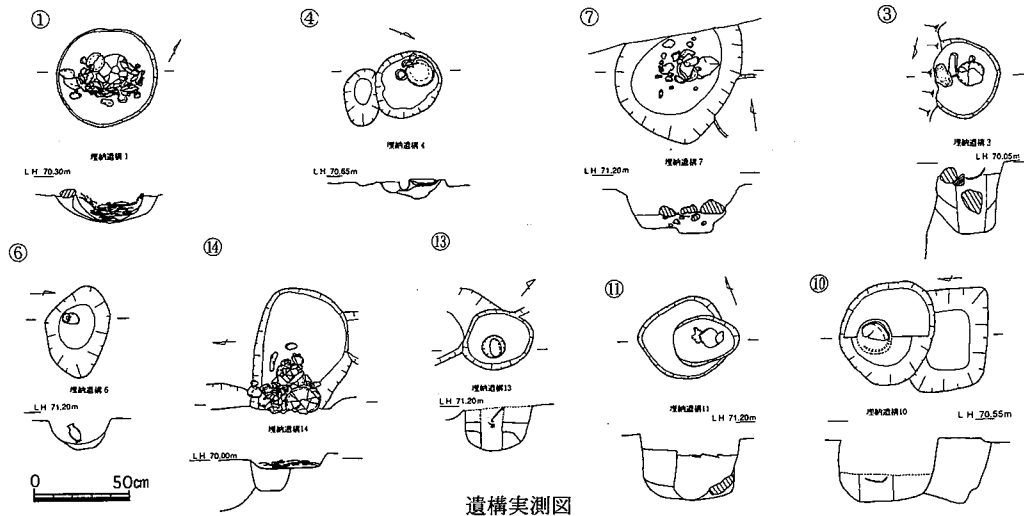




調査位置図 (1/5,000)



遺構平面図 (1~14は埋納遺構)



遺構実測図

⑪	遺構	土坑（埋納遺構11、方形、40~45×30）	時期	平安
	出土遺物	土師器、須恵器、鉄滓		
	埋納状況	柱抜き取り穴に鉄滓、須恵器、土師器を順次上に乗せつつ並べ置く。		
	関連遺構	SB18	位置	建物の南東角の柱抜き取り跡
⑫	遺構	土坑（埋納遺構12、方形、23×10）	時期	平安
	出土遺物	須恵器椀		
	埋納状況	須恵器椀の底部を立てた状態で据える。		
	関連遺構	SB16	位置	SB16の東柱筋の延長にある。
⑬	遺構	土坑（埋納遺構13、円形、33×25）	時期	平安・後期
	出土遺物	土師器コースター皿		
	埋納状況	柱当たりに皿を逆に埋置。		
	関連遺構	不明	位置	

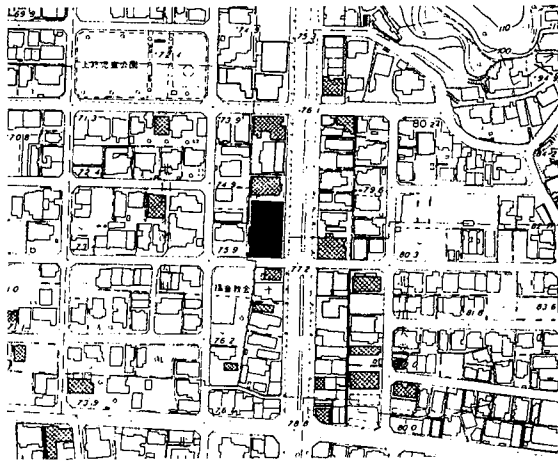
⑭	遺 構	土坑 (埋納遺構14、長円形、53~65×10)	時 期	11世紀
	出土遺物	土師器皿十数枚		
	埋納状況	全ての皿を下向きに置く。		
	関連遺構	不明	位 置	

参考文献…①~⑭久世1993、同1995a

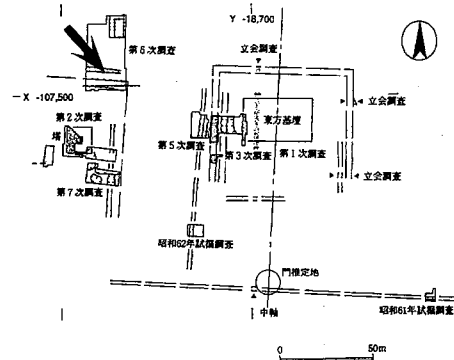
(40) 北白川廃寺 第6次調査

遺 構	土坑 (SK25、円形、25×10)	時 期	8世紀末
出土遺物	緑釉陶器		
埋納状況	緑釉陶器1点を坑底に据え置く。		
関連遺構	築地	位 置	
備 考	延暦10年の勅と関係するか。		

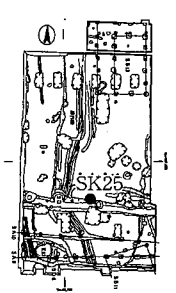
参考文献…網1993b、同1994b



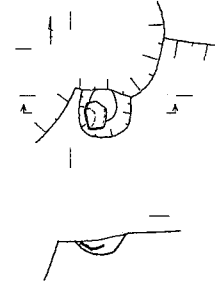
調査位置図 (1/5,000)



遺構配置図



遺構実測図



SK25実測図 (1/20)

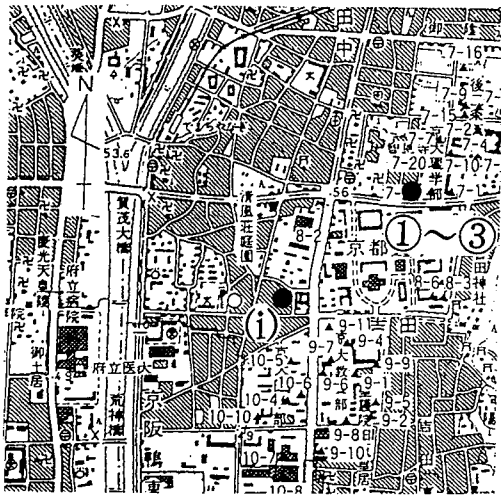
(41) 京都大学構内遺跡 → (i) を参照

遺構	埋納遺構 (SK13、掘形不明)	時期	10世紀前半
出土遺物	土師器甕1・坏・椀6、銭貨2、金箔、炭化物		
① 埋納状況	甕を正位に、其の上下に皿を据え置く。皿に銭貨などを埋置する。		
関連遺構	不明	位置	
備考	甕胴部に「中央」と墨書		

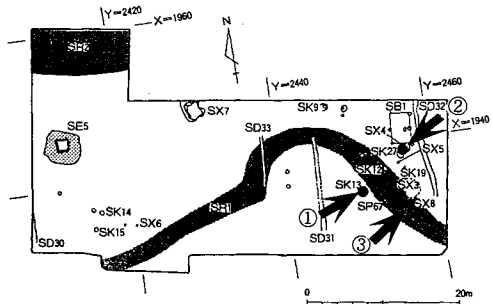
遺構	埋納遺構 (SX4、掘形不明)	時期	10世紀前半
出土遺物	土師器甕1・坏・椀2、銭貨2、金箔、炭化物		
② 埋納状況	不明		
関連遺構	不明	位置	
備考	甕胴部に「□寅」と墨書。		

遺構	埋納遺構 (SX8、掘形不明)	時期	10世紀前半
出土遺物	土師器甕？、銭貨4、金箔		
③ 埋納状況	土坑のほぼ中央に軒丸瓦を上向きに据え、その周囲に平瓦を囲むようにして配置。		
関連遺構	不明	位置	

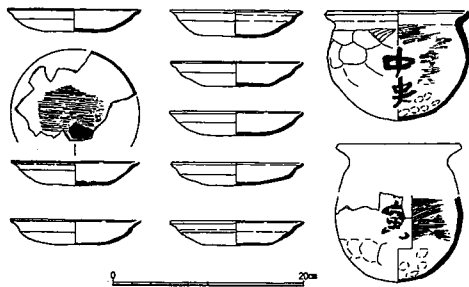
参考文献…①～③京都大学埋文センター1992



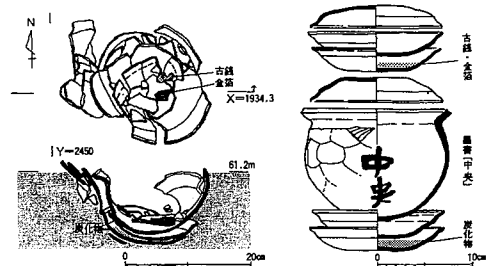
調査位置図 (1/25,000)



古代・中世の遺構



遺物実測図

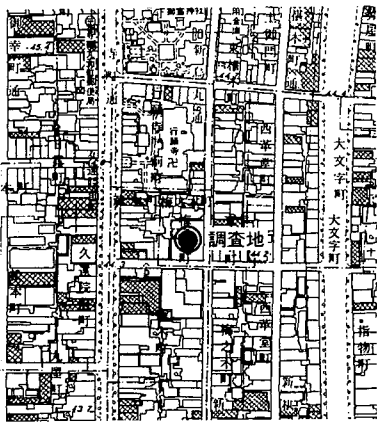


遺構実測図 (SK13)

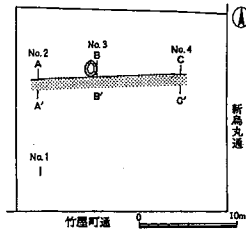
(42) 法興院跡

遺 構	落ち込み (溝か) A~D	時 期	平安・後期
出土遺物	土師器皿		
埋納状況	数枚の皿を重ねて一組の単位として埋置しているのを、都合4組を確認。		
関連遺構	不明	位 置	

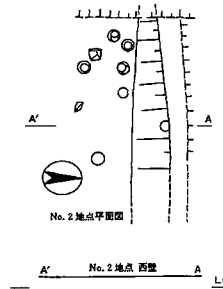
参考文献…尾藤1993



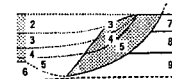
調査位置図 (1/5,000)



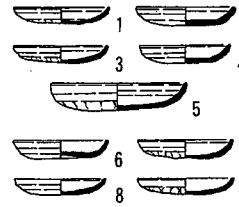
遺構略測図



1 層平面部分



埋納模式図 (A~D)



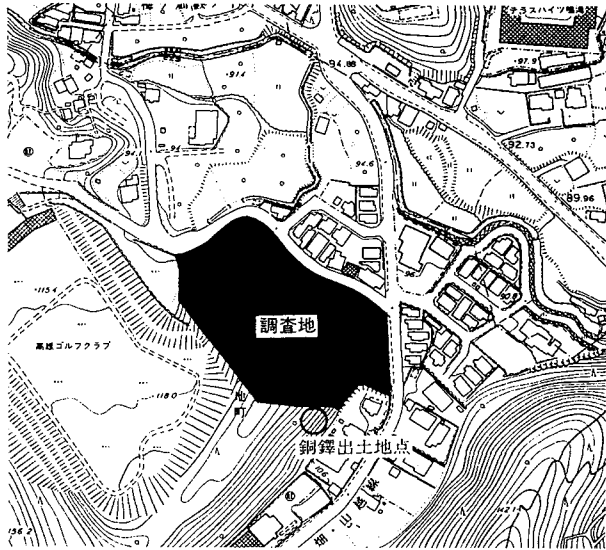
遺物実測図

(43) 梅ヶ畑遺跡 (梅ヶ畑祭祀遺跡)

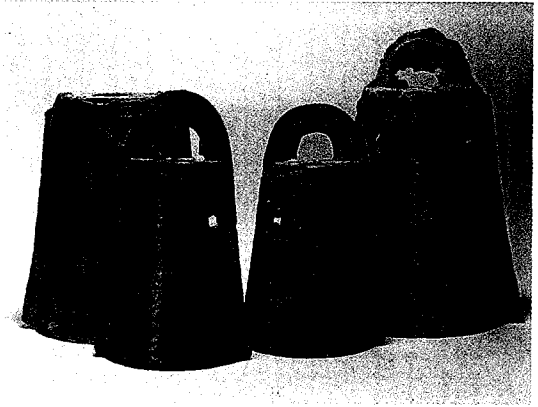
遺 構	不明。	時 期	奈良~平安中期
出土遺物	銅鐸 (外縁付紐 1 式、4 区袈裟襷文) 2、銅鐸 (外縁付紐 2 式、4 区袈裟襷文) 2		
① 埋納状況	不明		
関連遺構	不明	位 置	丘陵の頂上とその付近。
備 考	工事中に発見。		

遺 構	巨石、石敷遺構ほか	時 期	奈良~平安中期
出土遺物	二彩陶器、土師器、須恵器、製塩土器、銭貨ほか		
② 埋納状況	頂上付近から転落したものが大半。		
関連遺構		位 置	丘陵の頂上とその付近。
備 考	山岳祭祀と見做せるか。		

参考文献…①京都市1970、②京都市埋文研1997c、高橋1997、同1998、久世1998c

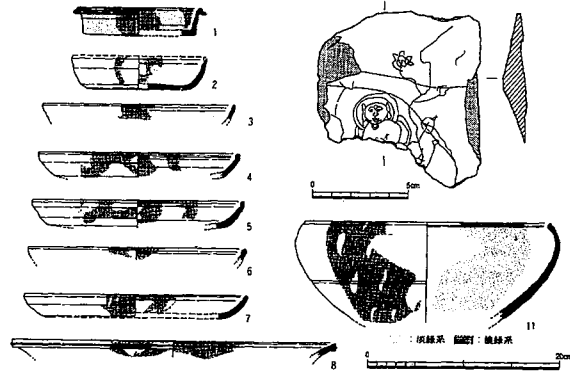
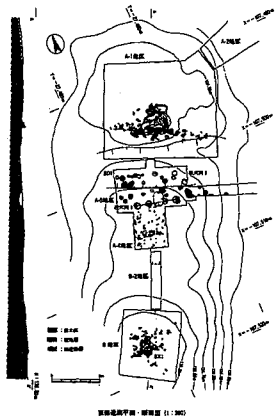


調査位置図 (1/5,000)



銅鐸 (①)

(京都府立総合資料館蔵/京都府文化博物館管理)

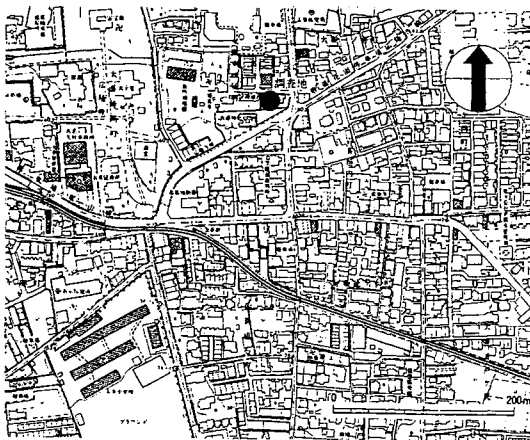


遺構・遺物実測図 (②)

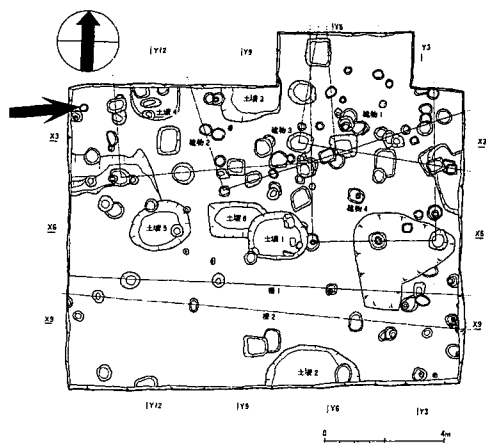
(44) 広隆寺旧境内

遺 構	土坑 (P131、円形、20×?)	時 期	10世紀
出土遺物	土師器 (数枚)、小壺、銅銭 (十数枚)		
埋納状況	小壺に銅銭十数枚を納入して埋納、その上に土師器数枚で蓋をする。		
関連遺構	不明	位 置	

参考文献…平田1980、京都市埋文研1997b



調査位置図 (1/8,000)



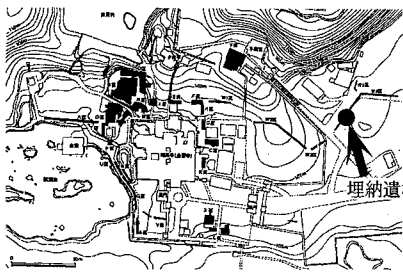
遺構実測図



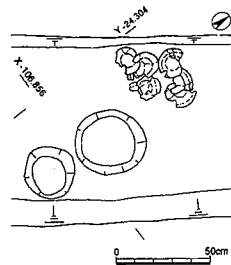
(45) 金閣寺

遺 構	埋納遺構 3 (掘り形は不明)	時 期	10世紀前半
出土遺物	土師器皿 6		
埋納状況	土師器皿 6 枚を重ねる。		
関連遺構	不明	位 置	
備 考	報文では地鎮遺構としているが、いわゆる「霊所七瀬」の一つ、“石影”に 関係するのではないかと考えられる。		

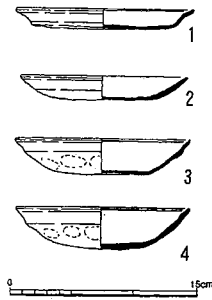
参考文献…京都市埋文研1997a



調査位置図



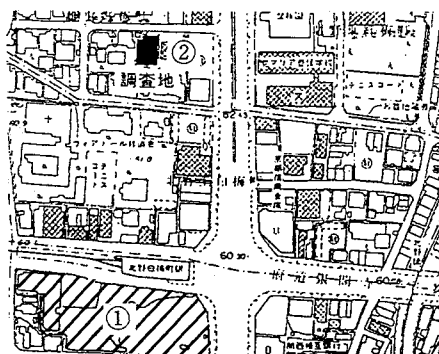
遺構・遺物実測図



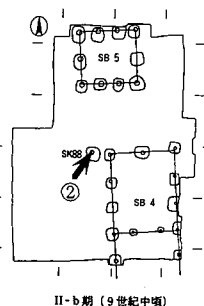
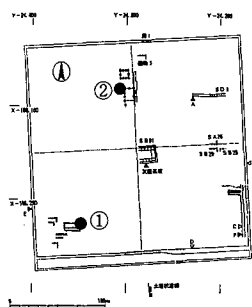
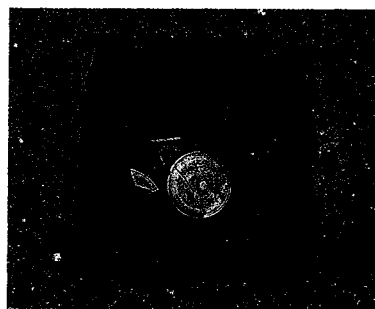
(46) 北野麩寺 ①7次、②15次調査

遺 構	柱穴	時 期	平安
出土遺物	土師器皿、須恵器蓋		
① 埋納状況	柱あたりに土器を据え置く。		
関連遺構	SB 1	位 置	建物の北西隅の柱
遺 構	柱穴 (SK88、隅丸方形、100×80)	時 期	9世紀後半
出土遺物	土師器甕・皿		
② 埋納状況	柱抜取穴に土器 (完形の土師器甕) を据え置く。		
関連遺構	SB 4	位 置	SB 4 の北柱列の延長

参考文献…①久世1992、②網1997



調査位置図 (1/5,000)



II-b期 (9世紀中頃)



0 10cm

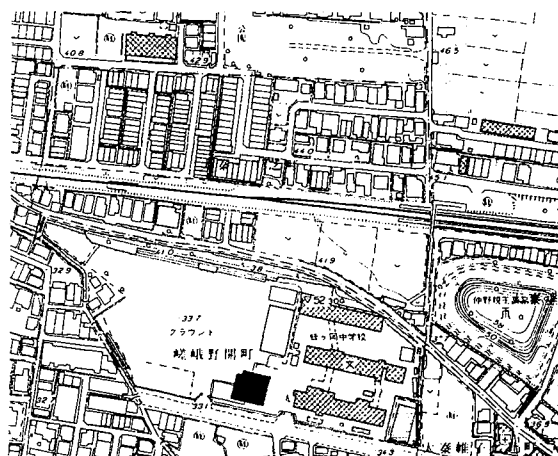
遺構・遺物実測図 (2)

(47) 上ノ段町

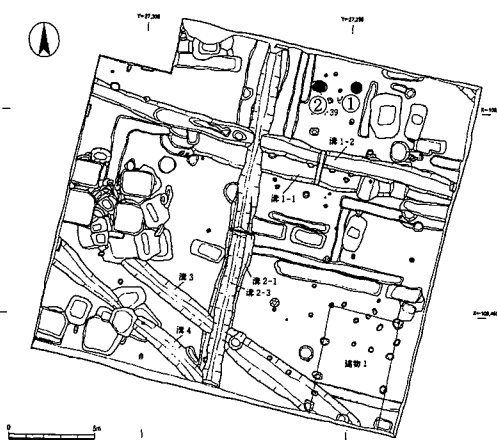
①	遺構	土坑 (ピット1、円形 30×10)	時期	平安・前期
	出土遺物	土師器皿・甕、須恵器甕、石		
	埋納状況	須恵器甕をピット39と分割して埋納。		
	関連遺構	不明	位置	

②	遺構	土坑 (ピット39、円形、30×10)	時期	平安・前期
	出土遺物	土師器皿・甕、須恵器甕、石		
	埋納状況	須恵器甕をピット1と分割して埋納。		
	関連遺構	不明	位置	
備考	須恵器甕は1・39と同一個体。①～②間は約2m離れている。			

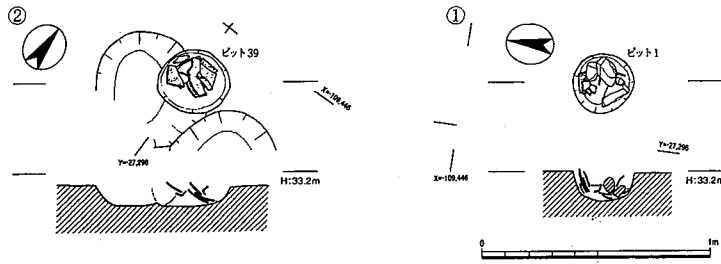
参考文献…①～②長戸1997



調査位置図 (1/5,000)



遺構実測図



遺構実測図

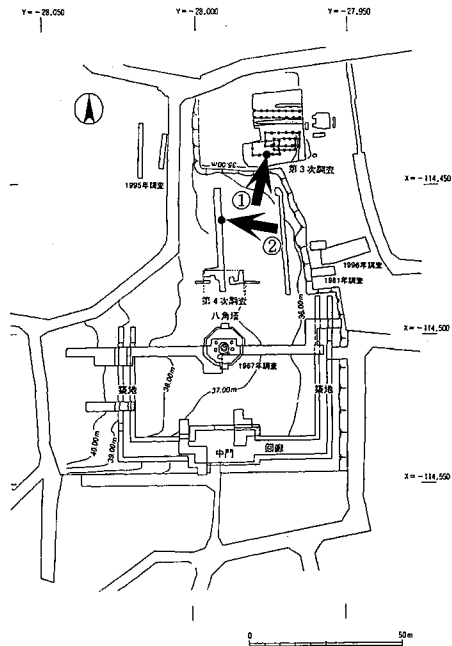
(48) 檜原廃寺

遺構	土坑 (P26、円形、40×10)	時期	8世紀末
出土遺物	軒丸瓦、軒平瓦		
① 埋納状況	軒丸瓦と軒平瓦を交互に据え置く。		
関連遺構	建物3	位置	南側梁行の中央柱に近接。
遺構	土坑 (SK220、隅丸方形、80×10)	時期	9世紀前後
出土遺物	軒丸瓦、平瓦		
② 埋納状況	土坑のほぼ中央に軒丸瓦を上向きに据え、その周囲に平瓦を囲むようにして配置。		
関連遺構	不明	位置	

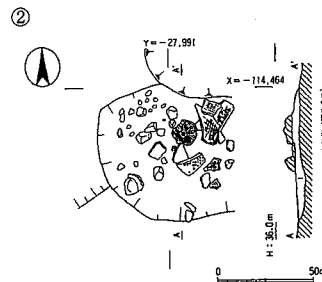
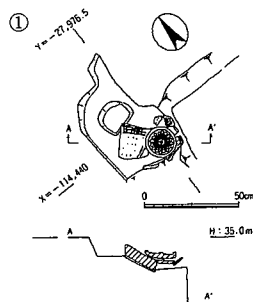
参考文献…①～②久世1998a



調査位置図 (1/5,000)



遺構配置図



遺構実測図



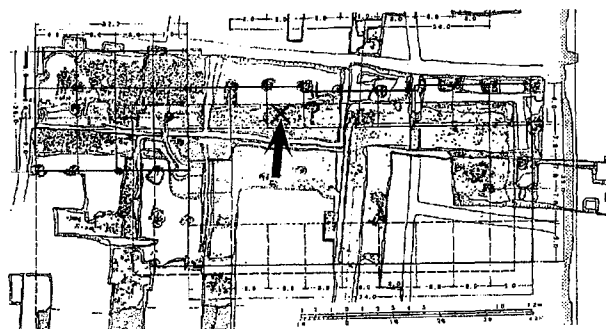
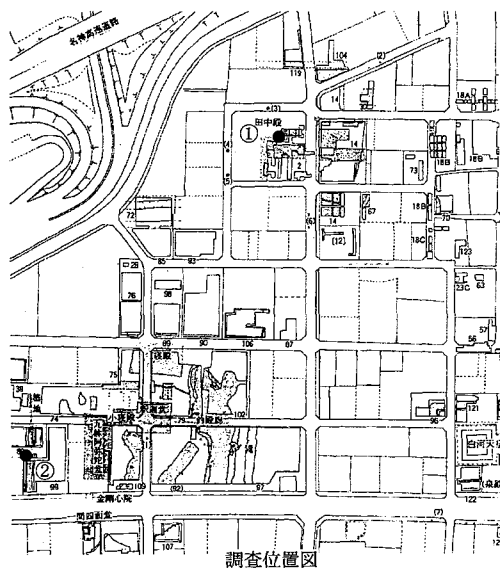
## (49) 鳥羽離宮跡 3次、80次

遺構	土坑？	時期	平安・後期
出土遺物	土師器皿18・壺、小玉（ガラス？）18		
① 埋納状況	南方建物の寝殿と考えられる土壇（北辺中央部）の端近くに皿と、その中央に壺を埋納。壺中に黄褐色の小玉(ガラス?)が25個。		
関連遺構	建物基壇	位置	南側梁行の中央柱に近接。

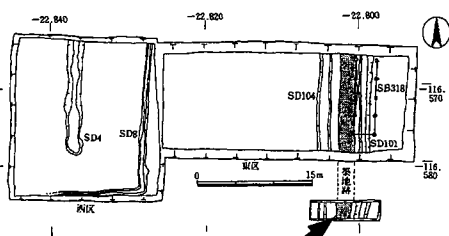
遺構	土坑 (SX146、楕円形、25~35×30+)	時期	平安・後期
出土遺物	壺、ガラス玉		
② 埋納状況	金剛心院の西側の築地塀の基礎と考える地業内。		
関連遺構	築地塀	位置	西の限り

参考文献…①杉山1962 ②京都市埋文研1984、前田1984

備考…①は犯土（造作）に伴う祭祀。②は敷地の安堵のための祭祀。



遺構実測図 (1)。



遺構実測図 (2)

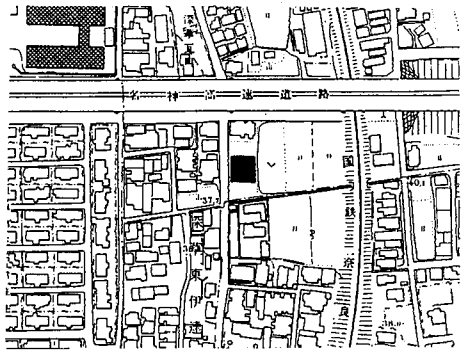


②

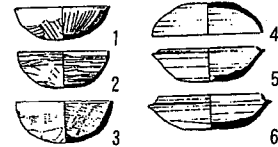
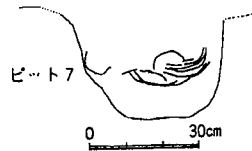
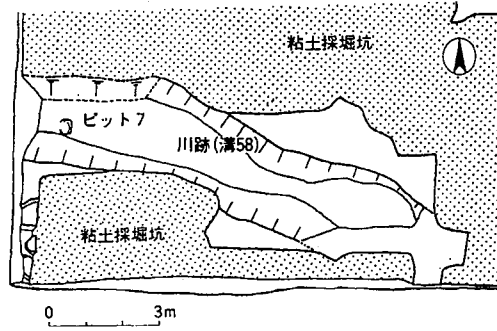
## (50) 深草坊町遺跡

遺構	土坑 (SK 7、円形、40×20)	時期	平安・初期
出土遺物	土師器甕・椀、須恵器壺、炭		
埋納状況	土師器甕を敷き、その上に3群の椀を正位に据える。		
関連遺構	不明	位置	

参考文献…梅川1988、久世1996



調査位置図 (1/5,000)

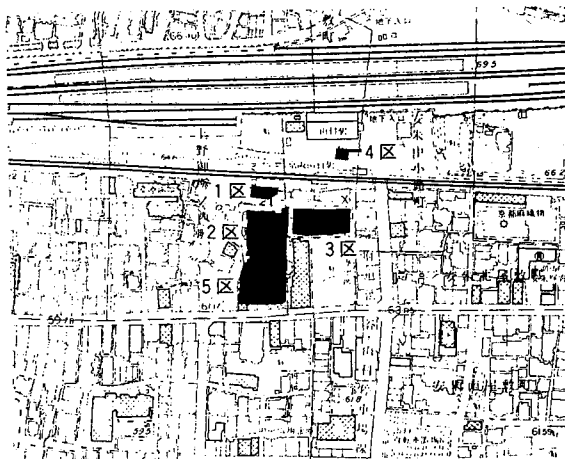


遺構・遺物実測図

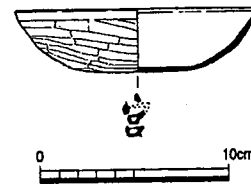
(51) 安朱遺跡 (安祥寺下寺) → (m) を参照

遺 構	柱穴 (pit235、隅丸方形)	時 期	平安・前期
出土遺物	土師器坏1 (「宮」と墨書)		
埋納状況	柱当りに上向きに坏1点を埋置。		
関連遺構	建物5-3	位 置	建物の北東隅
備 考	東方で9世紀後半の木炭木郭墓を検出。[高1994]		

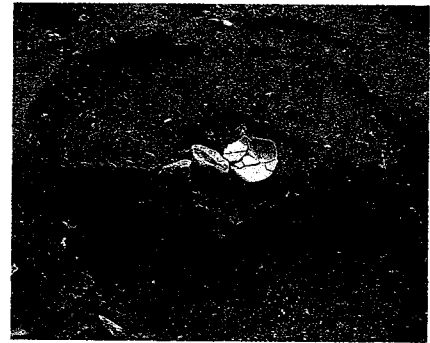
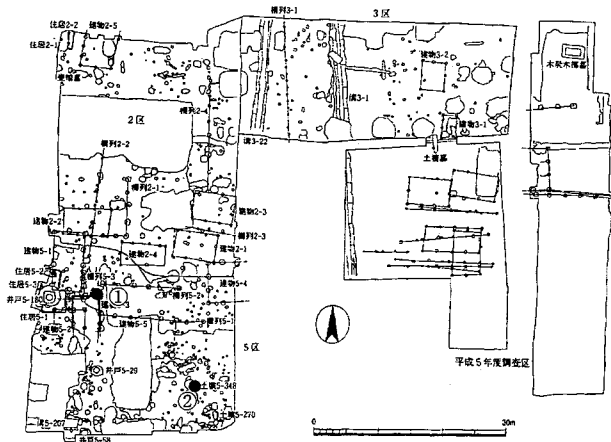
参考文献…高1996



調査位置図 (1/5,000)



出土土器 (①)

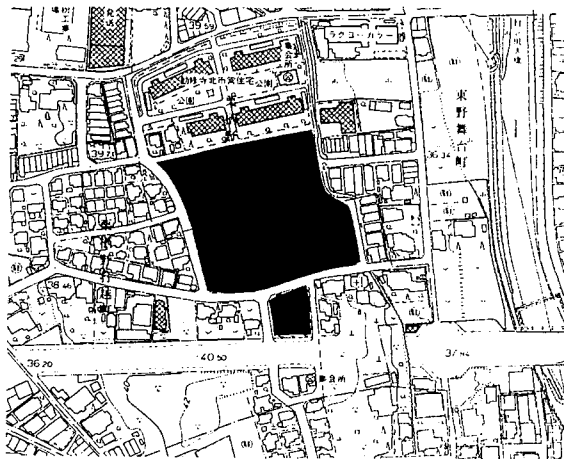


遺構配置図

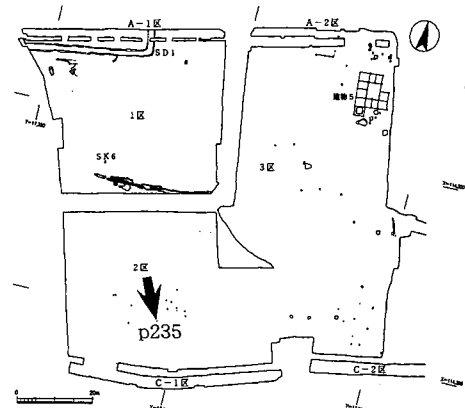
(52) 中臣遺跡 第73次調査

遺 構	埋納 (P235、円形)	時 期	11世紀
出土遺物	土師器皿		
埋納状況	柱穴状の掘込に完形の土師器 1 点を納める。		
関連遺構	不明	位 置	

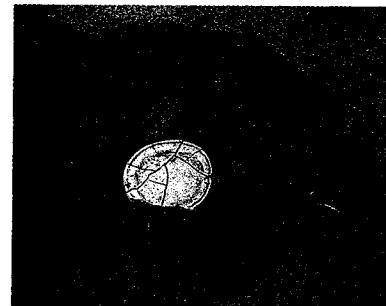
参考文献…内田1997



調査位置図 (1/5,000)



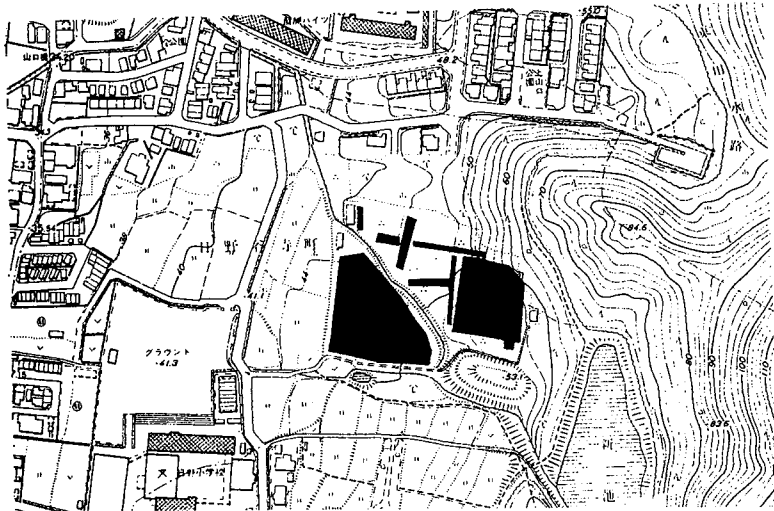
遺構実測図



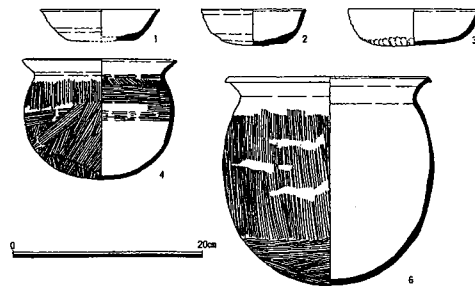
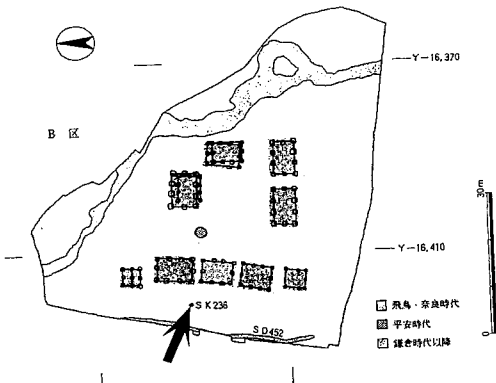
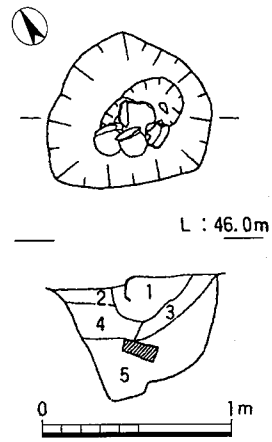
(53) 日野谷寺町遺跡

遺 構	土壇 (SK236、円形、80×60)	時 期	奈良
出土遺物	土師器皿・甕		
埋納状況	上面に皿 1、底部に甕 3 が完形で埋納。		
関連遺構	南北建物	位 置	建物群と溝の中間
備 考	他の遺構から縄文時代の土偶が出土している。		

参考文献…菅田1987



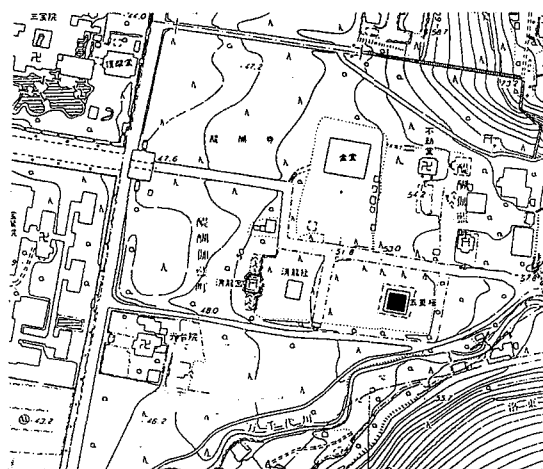
調査位置図 (1/5,000)



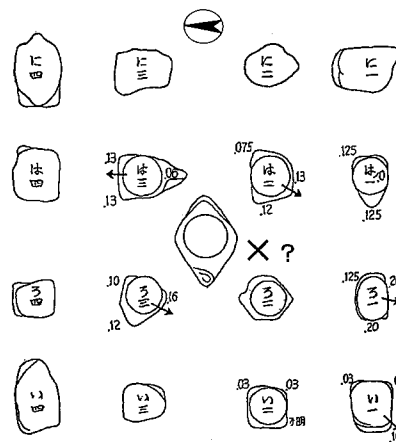
(54) 醍醐寺

遺構	詳細は不明。基壇内。	時期	平安・中期
出土遺物	鍍金銅環、銭貨多数		
埋納状況	心礎の周辺にばらまいた状況で検出。		
関連遺構	五重塔基壇	位置	塔心礎南側の地下2尺5寸の位置から発見
備考	塔は永平5(931)年に発願、天曆5(951)年に完成。		

文献…京都府教育庁文化財保護課1960、森1976



調査位置図 (1/5,000)



塔礎石と出土地点

=参考資料=

中世以後の遺構、実測図・写真などの具体的な資料がない、遺構・遺物の検出状況が明瞭でない、しかし明かに否定することも出来ないなどの理由で参考資料とした。

(a) 平安京・左京二条三坊一町

遺構	井戸 (SE21、方形)	時期	10世紀前後
出土遺物	土師器皿		
埋納状況	井戸の中位で土師器皿2枚を合わせ口にして埋置。		
関連遺構		位置	
備考	図・写真などの具体的なデータの提示がないため、参考資料とした。		

参考文献…古文化調査会（家崎孝治氏）による教示

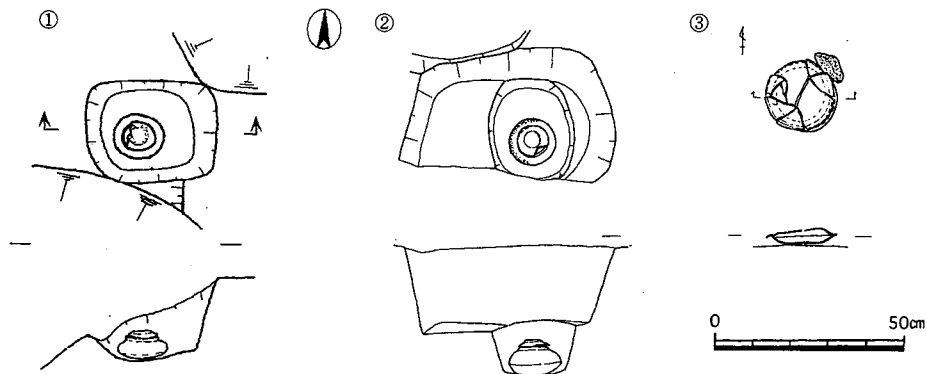
(b) 平安京・左京二条四坊十一町 → (8) を参照

遺構	土坑 (SK2103、方形、32×30)	時期	室町
出土遺物	土師器皿、瓦器壺		
① 埋納状況	土坑の中に壺を据えて、その上に皿で蓋をする。壺内に一辺1cm程度の角礫10数個を納入。		
関連遺構	大炊御門大路?	位置	106.5、30.1

遺構	土坑 (SK2725B、方形、30×30)	時期	室町
出土遺物	土師器皿、瓦器壺		
② 埋納状況	①と同じ埋納法。		
関連遺構	不明	位置	81.4、46.0

遺構	不明 (SX2001、掘形無し?)	時期	室町
出土遺物	土師器皿2		
③ 埋納状況	土師器皿2枚を口縁部同士合わせて置く。		
関連遺構	不明	位置	84.8、43.0

参考文献…①～③堀内1996a

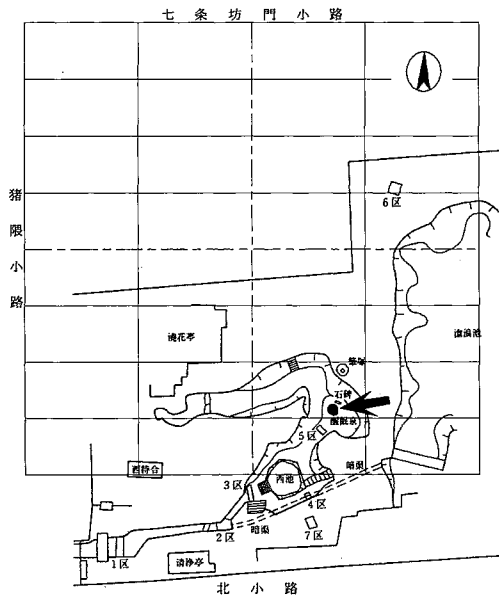


遺構実測図

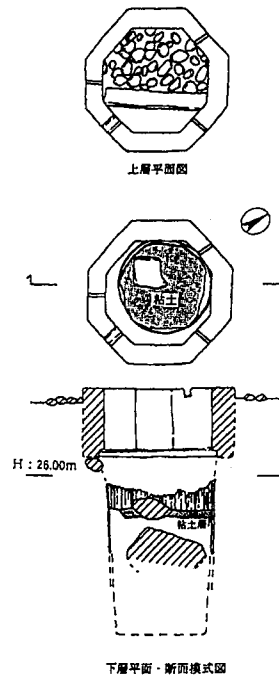
(c) 平安京・左京七条二坊六町 (西本願寺滴翠園)

遺構	井戸 (醒眠泉、上部八角形、70×120+)	時期	17世紀?
出土遺物	陶器ほか		
埋納状況	井戸の中位に径50cmの石を据え置き、その上に厚さ10cm位に粘土を敷いて玉石を詰める。(16・33)と同種の埋納方法と考える。		
関連遺構		位置	

参考文献…近藤知子氏教示



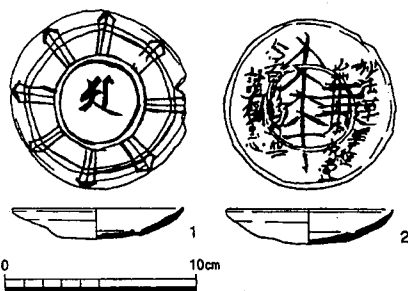
調査位置図



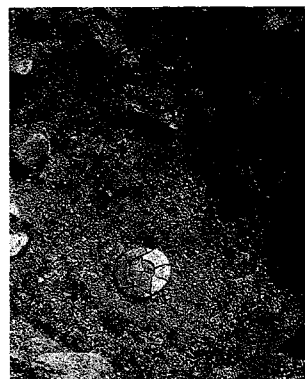
(d) 平安京・左京八条二坊十四町 → (16) を参照

遺構	土坑 (SK229、円形、75×35)	時期	18世紀
出土遺物	土師器皿		
埋納状況	土坑の底部に皿2枚を合口にして埋納。皿内面に墨書。		
関連遺構	建物?	位置	78.1、92.0
備考	法華のまじない (九字法)		

参考文献…東1998



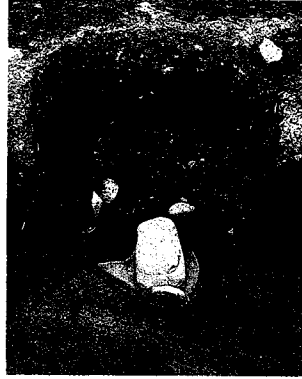
遺物実測図



(e) 平安京・右京一条四坊十三町・法金剛院 → (22) を参照

遺 構	柱穴 (pit46)	時 期	室町
出土遺物	銭貨20、瓦		
埋納状況	柱当りに石と瓦を据え置く。その下に銭貨20を散布。		
関連遺構	建物	位 置	?

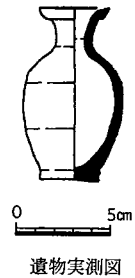
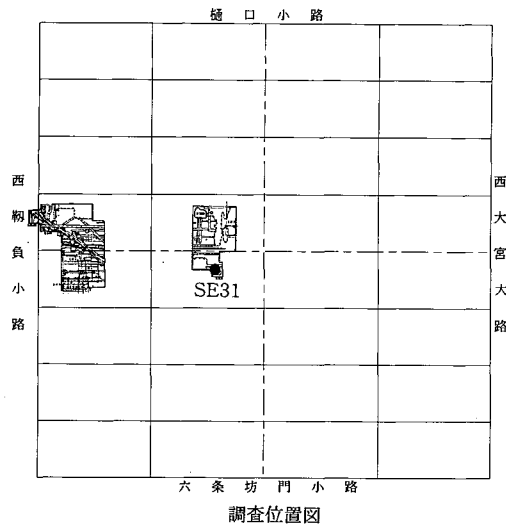
参考文献…小松1998



(f) 平安京・右京六条二坊二町

遺 構	井戸 (SE31、円形縦板枠、120×230)	時 期	平安・前期
出土遺物	須恵器小壺		
埋納状況	土師器、緑釉陶器と共に胡麻が詰まった須恵器小壺が出土している。		
関連遺構		位 置	44.9、22.3
備 考	これだけでは祭祀の痕跡とは決定し難いため、参考資料とした。		

参考文献…網1994

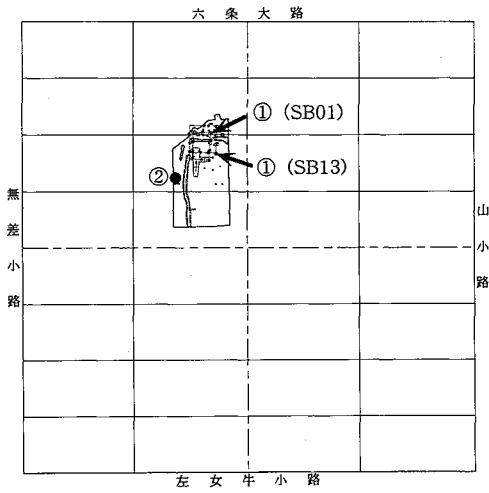


(g) 平安京・右京七条四坊九町

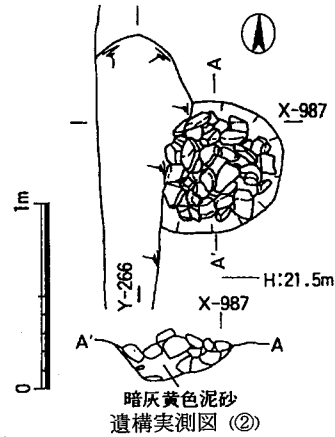
遺 構	柱穴 (SB01、13)	時 期	平安・前期
出土遺物	灰釉陶器		
① 埋納状況	別の建物の掘形から同一個体の土器が出土		
関連遺構	掘立柱建物?	位 置	75.9、41.2
備 考	どのようにして家を建てたか判然としないため、参考資料とした。		

遺構	土坑 (SK01、円形、70×25)	時期	不明
出土遺物	礫のみ		
② 埋納状況	拳大の礫だけが詰まっていた。		
関連遺構	不明	位置	78.1、92.0
備考	報文では何も触れていないが、検出状況から埋納遺構の可能性が見込まれる。		

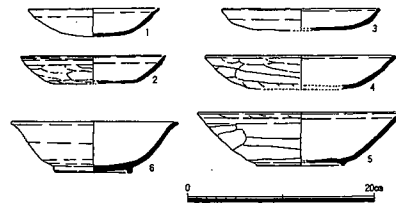
参考文献…菅田1994b



調査位置図



暗灰黄色泥砂  
遺構実測図 (②)

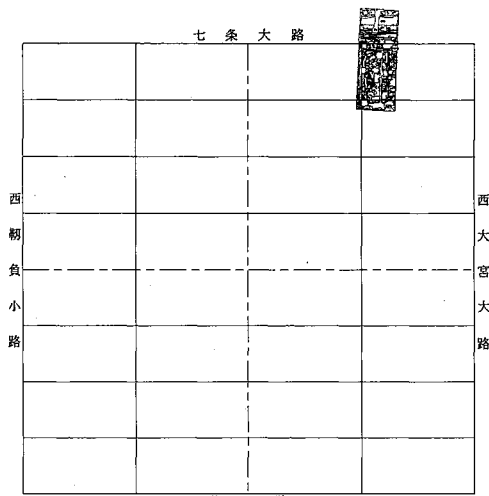


出土土器 (SB13)

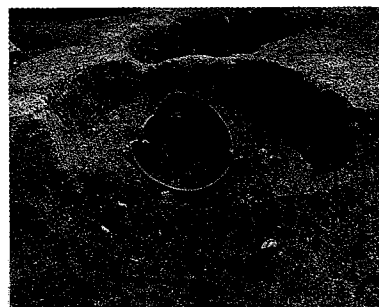
(h) 平安京・右京八条二坊一町

遺構	柱穴	時期	鎌倉～室町
出土遺物	瓦器碗		
埋納状況	完形の土器を柱あたりに埋置。		
関連遺構		位置	

参考文献…辻1994



調査位置図

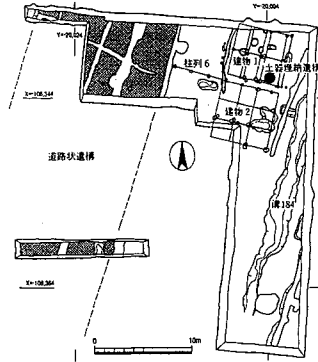




(i) 京都大学構内遺跡 → (41) を参照

遺構	土坑（埋納遺構、掘形不明）	時期	14世紀後半～15世紀前半
出土遺物	筒形瓦質土器		
埋納状況	完形の遺物を立位で埋納。土師器皿で蓋をした痕跡あり。		
関連遺構	建物1	位置	建物1の敷地内。

参考文献…内田1998

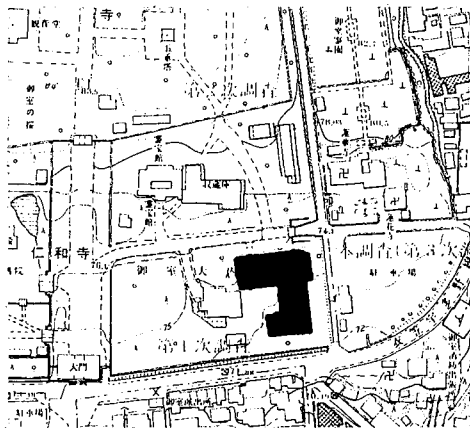


遺構実測図

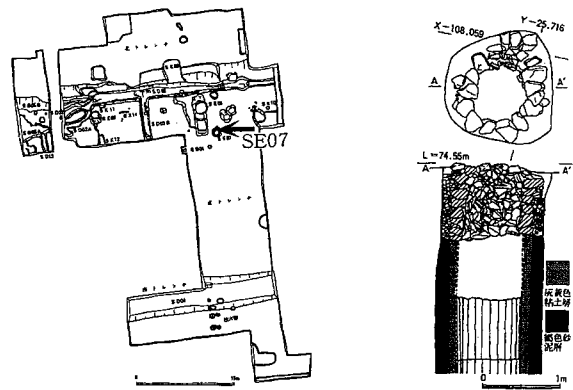
(j) 仁和寺境内

遺構	井戸（SE07、円形、140×280+）	時期	江戸
出土遺物	陶器ほか		
埋納状況	井戸枠の中心部に竹を立てる。		
関連遺構		位置	

参考文献…京都市埋文研1990



調査位置図 (1/5,000)

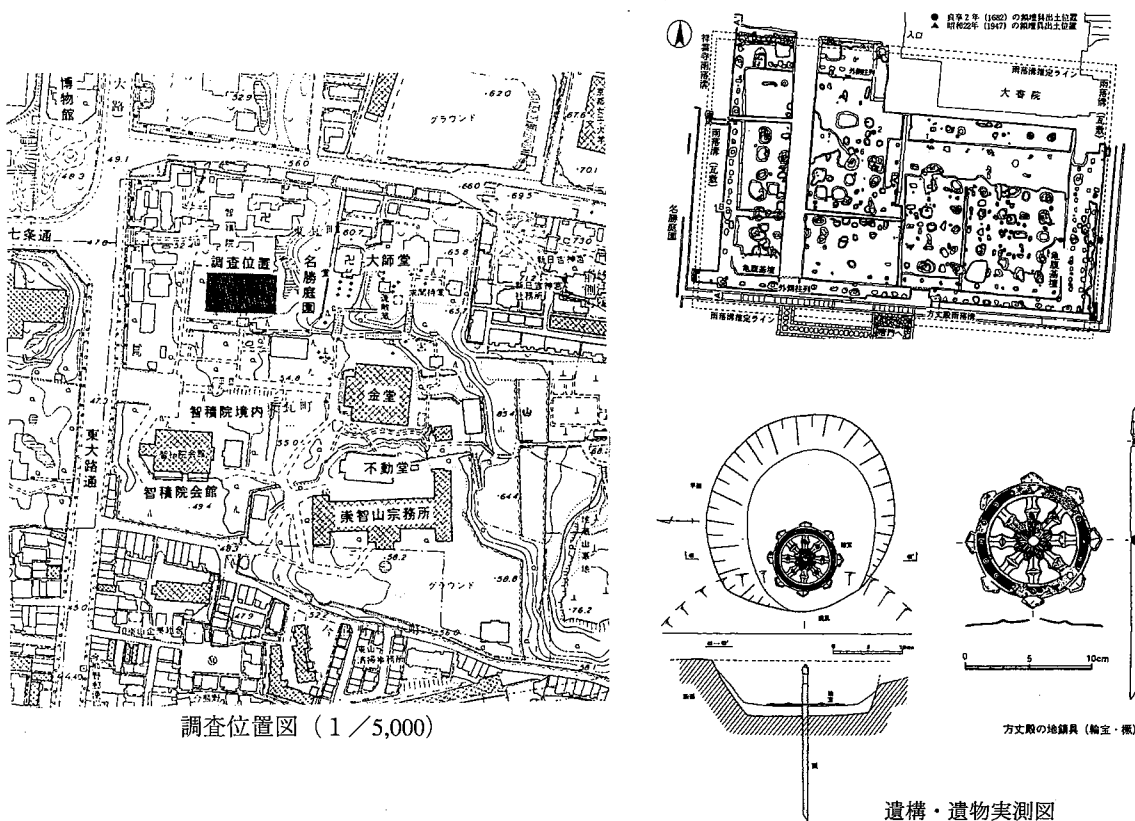


遺構実測図

(k) 智積院境内

遺 構	土坑 (地鎮遺構 1・2、円形、30×10)	時 期	1682 (貞亨元) 年
出土遺物	輪宝、楸		
埋納状況	坑底に輪宝を据え置き、その中心に楸を突き立てる。		
関連遺構	建物	位 置	建物のほぼ中心北縁部。地鎮遺構 1・2 は対となるもの。
備 考	1950 (昭和25) 年に埋納したのも 5箇所見つかっている。埋納様式は平安時代から殆ど変化が認められない。		

参考文献…智積院1995



調査位置図 (1/5,000)

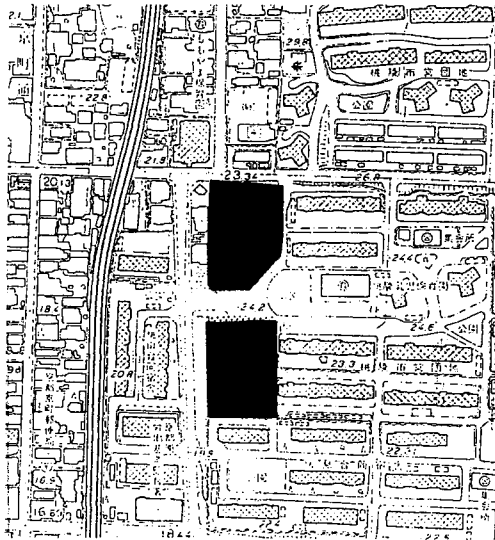
大方眼の地鎮具 (輪宝・楸)

遺構・遺物実測図

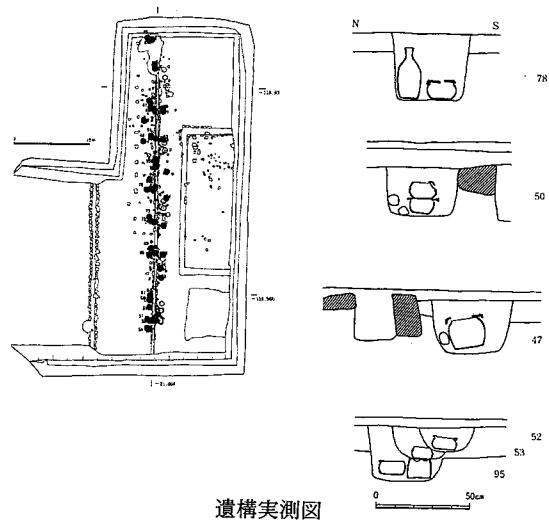
(1) 伏見城城下町

遺 構	土坑 (計60基、円形、40前後×15~30前後)	時 期	江戸・後期
出土遺物	胞衣壺、徳利、土師器皿		
埋納状況	単体あるいは2個体を埋置、また徳利とともに埋納している例もある。		
関連遺構	道路の側溝としての石組溝?	位 置	南北方向の石組溝の周辺に集中している。
備 考	祭祀の民俗例としての可能性があるため挙げておいた。		

参考文献…京都市住宅局1990



調査位置図（1/5,000）

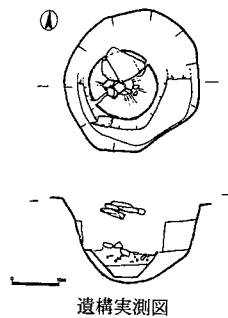


遺構実測図

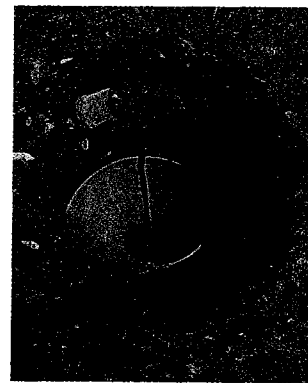
(m) 安朱遺跡（安祥寺下寺） → (49) を参照

遺 構	土坑（SK 5-348、円形、36×20）	時 期	江戸・後期
出土遺物	播鉢		
埋納状況	播鉢を正位に据え置き、その上部に径10~20cmの偏平な石を二つ重なるように置く。		
関連遺構	不明	位 置	

参考文献…高1996



遺構実測図

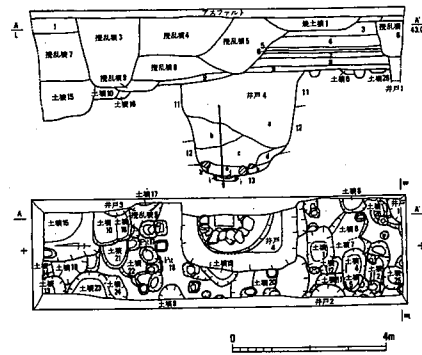
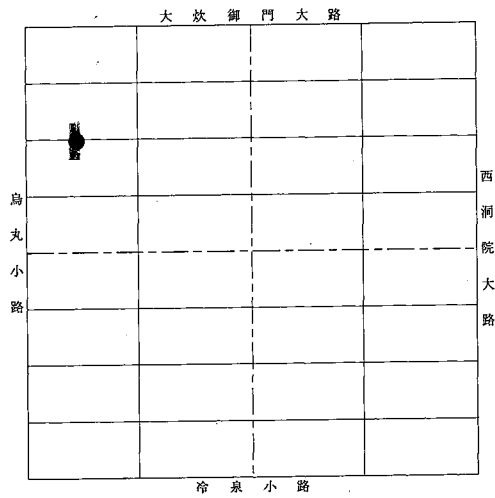


—追加資料—

(i) 平安京・左京二条三坊十三町

遺 構	井戸（井戸4、円形石組枠、105×290）	時 期	平安・後期
出土遺物	土器類。瓦類、木製品、種子ほか		
埋納状況	井側は殆ど残っていないが、中央に竹筒（径4、長さ190以上）が残存する。		
関連遺構		位 置	74.8、11.2

参考文献…京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会1981



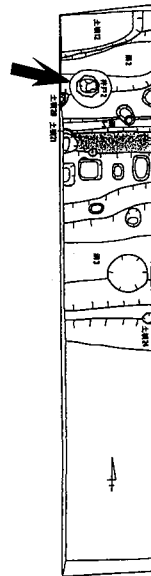
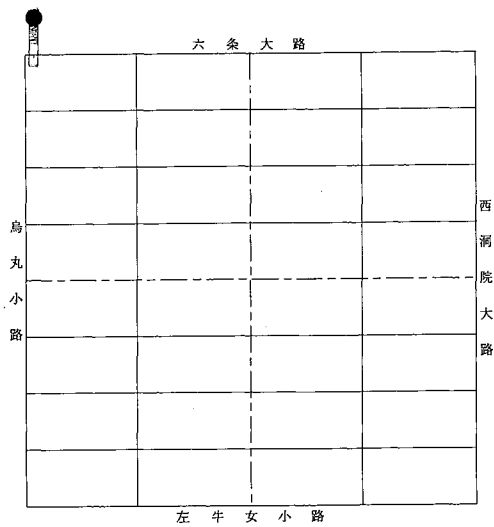
調査位置図

調査区 (No.63) 実測図

(D) 平安京・左京七条三坊十五町

遺構	井戸 (井戸2、円形縦板枠、100×130)	時期	中世
出土遺物	土師器皿ほか		
埋納状況	径50cm大の大石が井戸を閉じるように置かれる。		
関連遺構		位置	44.9、22.3
備考	平安京では条坊道路内に位置する。		

参考文献…京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会1981



調査位置図

調査区 (No.76) 平面図

===引用・参考文献一覧===

- 東洋一・網伸也・真喜志悦子 1997 「平安京右京二条二坊」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』  
(財)京都市埋蔵文化財研究所
- 東洋一・南出俊彦 1998 「平安京左京八条二坊1」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京  
都市埋蔵文化財研究所
- 網伸也・鈴木久男 1989 「平安宮内裏」『平安京跡発掘調査概報』昭和63年度 京都市文化観光局
- 網伸也 1993a 「平安京六条二坊1」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化  
財研究所
- 網伸也 1993b 「北白川廃寺の伽藍復原—最近の発掘調査成果による—」『平安京歴史研究』 杉山信三先  
生米寿記念論集刊行会
- 網伸也 1994a 「平安京左京二条二坊・高陽院跡2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)  
京都市埋蔵文化財研究所
- 網伸也 1994b 「北白川廃寺2」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 網伸也・南孝雄 1997 「北野廃寺跡第15次調査」『京都市内発掘調査概報 平成8年度』(財)京都市埋蔵文  
化財研究所
- 網伸也 1998 「頼通邸高陽院の礎石建物」『リーフレット京都』113 (財)京都市埋蔵文化財研究所・京  
都市考古資料館
- 家崎孝治 1984 「平安京右京七条四坊(HR20)」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和58年度』 京都市  
文化観光局
- 内田好昭・高橋潔・平方幸雄 1997 「中臣遺跡73次調査」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』  
(財)京都市埋蔵文化財研究所
- 内田好昭 1998 「京都大学構内遺跡」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化  
財研究所
- 梅川光隆 1986 「平安宮内裏」『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度 京都市文化観光局
- 梅川光隆 1988 「深草坊町遺跡」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財研究所概報』 (財)京都市埋蔵文化  
財研究所
- 梶川敏夫編 1995 『総本山智積院境内祥雲寺客殿跡の発掘調査—智積院講堂新築工事予定地の埋蔵文化財  
発掘調査報告—』 智積院
- 木下保明 1994 「平安京左京四条四坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵  
文化財研究所
- 京都市住宅局・伏見城研究会 1990 『伏見奉行所発掘調査報告—桃陵団地立て替え工事に伴う埋蔵文化財  
調査—』
- 京都市編 1970 「平安の新京」『京都の歴史』1 学芸書林
- 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1981 『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報 Ⅲ 本文編 1977～  
1981年度』
- 京都市埋蔵文化財研究所編 1984 『増補改編 鳥羽離宮跡』
- 京都市埋蔵文化財研究所編 1990a 『仁和寺境内発掘調査報告—御室会館建設に伴う調査—京都市埋蔵文  
化財研究所調査報告第9冊』

- 京都市埋蔵文化財研究所編 1990b 『平安京右京三条三坊—京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊』
- 京都市埋蔵文化財研究所編 1995 『平安宮Ⅰ』京都市埋蔵文化財調査報告第13冊
- 京都市埋蔵文化財研究所編 1997a 『特別史跡特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園』 鹿苑寺
- 京都市埋蔵文化財研究所編 1997b 『京都嵯峨野の遺跡 京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊』
- 京都市埋蔵文化財研究所編 1997c 『梅ヶ畑祭祀遺跡』現地説明会資料
- 京都市埋蔵文化財研究所編 1998 『水垂遺跡 長岡京左京六・七条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第17冊
- 京都大学埋蔵文化財研究センター 1993 『京都大学構内遺跡調査研究年報』1992年度
- 京都府教育委員会 1980 「平安京跡（右京一条三坊九町）昭和54年度発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報 1980-3』
- 京都府教育委員会 1981 「平安京跡（右京一条三坊九・十町）昭和55年度発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報 1981-1』
- 京都府教育庁文化財保護課 1960 『国宝建造物醍醐寺五重塔修理工事報告書』
- 京都府埋文センター 1997 「名神高速道路関係遺跡」『京都府遺跡調査概報』第74冊
- 久世康博 1988 「平安京跡の祭祀資料の検討」『考古学論集』第2集 考古学を学ぶ会
- 久世康博 1992 「山城国北野廃寺の寺域について」『考古学論集』第4集 考古学を学ぶ会
- 久世康博 1993 「植物園北遺跡の埋納遺構について—検出遺構の紹介を中心に—」『平安京歴史研究』  
杉山信三先生米寿記念論集刊行会
- 久世康博 1995a 「植物園北遺跡」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所
- 久世康博 1995b 「辻の祭祀考」『研究紀要』第2号 （財）京都市埋蔵文化財研究所
- 久世康博 1996 「稻荷社とその周辺の考古学的知見」『朱』第39号 伏見稻荷大社
- 久世康博 1998a 「榎原廃寺跡第4次調査」『京都市内遺跡発掘調査概報』平成9年度 京都市文化市民局
- 久世康博・堀内寛昭 1998b 「平安京右京一条三坊」『平成8年度 京都市埋蔵文化財研究概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所
- 久世康博 1998c 「山岳祭祀の基礎的研究—京都市右京区梅ヶ畑地区の遺跡群をめぐって—」『仏教史研究』第35号 龍谷大学仏教史研究会
- 高正龍 1994 「木炭木郭墓を発見」『リーフレット京都』No61 （財）京都市埋蔵文化財研究所
- 高正龍・久世康博・丸川義広・津々池惣一 1996 「安祥寺下寺跡」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所
- 小松武彦・吉村正親・小椋山一良 1998 「平安京右京一条四坊・法金剛院境内」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所
- 小森俊寛・原山充志 1989 「平安京左京四条四坊」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所
- 小森俊寛・長戸満男・原山充志 1993 「平安京左京三条四坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所
- 小森俊寛・上村憲章 1994 「平安京左京四条三坊2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所

- 杉山信三 1962 『院の御所と御堂－院家建築の研究－』 奈良国立文化財研究所
- 菅田薫 1987 「日野谷寺町遺跡」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所
- 菅田薫 1989 「平安京右京八条二坊」『平安京跡発掘調査概報 昭和63年度』 京都市文化観光局
- 菅田薫 1994a 「平安京右京六条三坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 菅田薫 1994b 「平安京右京七条四坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 鈴木久男 1989 「平安宮豊楽院(1)」『平安京発掘調査概報』昭和60年度 京都市文化観光局
- 鈴木久男 1991 「平安宮豊楽殿」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 高橋潔 1997 「梅ヶ畑祭祀遺跡」『第五回 京都府埋蔵文化財研究会発表資料集』 京都府埋蔵文化財研究会
- 高橋潔 1998 「4 梅ヶ畑祭祀遺跡(97UZ10)」『京都市内遺跡立会調査概報』 京都市文化市民局
- 辻裕司 1993 「平安京右京四条二坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 辻裕司 1994 「平安京右京八条二坊・西市跡」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 辻裕司・鈴木廣司 1995 「平安京左京三条三坊」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 長戸満男 1988 「平安京左京四条四坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 長戸満男・山本雅和・近藤知子・鈴木廣司 1995 「平安京左京五条四坊」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 長戸満男 1997 「上ノ段町遺跡」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 長谷川行孝編 1986 『学校法人両洋学園 平安京跡発掘調査報告書』 学校法人両洋学園 平安京跡発掘調査会
- 花園大学考古学研究室 1998 『花園大学構内調査報告V－京都市右京区花園春日町・ハツコ町－』
- 尾藤徳行・竜子正彦・吉村正親・吉本健吾 1993 「法興院跡」『京都市内遺跡立会調査概報』平成4年度 京都市文化観光局
- 平尾政幸・本弥八郎 1988 「平安京右京二条三坊3」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 平田泰 1980 『広隆寺跡－右京検察庁庁舎改築に伴う発掘調査の概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 平田泰 1998 「平安京右京二条三坊」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 堀内明博 1981 「平安京右京五条二坊」『平安京跡発掘調査報告 昭和55年度』 京都市埋蔵文化財調査センター
- 堀内明博・吉崎伸 1988a 「平安京右京二条三坊1」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)

- 堀内明博・梅川光隆 1988b 「平安京右京九条二坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)  
京都市埋蔵文化財研究所
- 堀内明博 1989a 「平安宮内匠寮」『平安京跡発掘調査報告』昭和63年度 京都市文化観光局
- 堀内明博・木下保明 1989b 「平安京右京三条二坊」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)  
京都市埋蔵文化財研究所
- 堀内明博 1993 「平安宮内匠寮跡」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 堀内明博・内田好昭・久世康博・丸川義広 1996a 「平安京左京二条四坊」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 堀内明博 1996b 「平安京左京六条四坊・河原院跡」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)  
京都市埋蔵文化財研究所
- 前田義明・丸川義広 1984 「鳥羽離宮跡・第80次調査」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』  
(財)京都市埋蔵文化財研究所
- 前田義明・会下和宏 1994 「平安京左京一条三坊」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 本弥八郎・平田泰・木下泰明 1987 「平安京左京一条三坊」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』  
(財)京都市埋蔵文化財研究所
- 百瀬正恒・辻裕司・南孝雄 1994 「平安京左京五条三坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』  
(財)京都市埋蔵文化財研究所
- 森郁夫 1976 「奈良時代の鎮壇具埋納」『研究論集Ⅲ』 奈良国立文化財研究所学報第28冊
- 山本雅和 1994 「平安京左京二条二坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 山本雅和 1998 「平安京左京八条三坊1」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 吉崎伸 1983 「右京一条三坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所